

雑誌目録の今・未来 - 初号主義と最新号主義 -

平成17年度 総合目録データベース実務研修 雑誌班

磯野 肇

澤田 明美

津久井 祐子

中村 健

序

昨今、雑誌というと電子ジャーナルが話題の主流になり、NACSIS-CAT でも電子ジャーナルの入力指針が示されて久しい。しかし、いざ冊子体の雑誌目録作業となると、雑誌特有の継続性という問題があり、戸惑う時が多かった。特に誌名の変遷に関する書誌修正作業などでは手間と時間をかけて、また、NII担当者を巻き込んだデータ作成を行う必要があり、手続きも複雑である。今後、「目録システム講習会(雑誌コース)」増設の動きもあることから、雑誌書誌データの品質管理を徹底する意味で、データ作成時の注意点を再確認し、その基準を踏まえた上で間違いやすいポイントを具体的に、また事例を含めて列挙した。雑誌書誌は熟練した担当者でも新規作成・修正する機会が図書館に比べ極端に少ないことから、適切な処理が継続できるようにまとめたつもりであり、全国の雑誌目録担当者の参考となればと思っている。

電子ジャーナルの目録作業については、電子媒体資料という冊子体ではない対象物であり、現在のNACSIS-CAT雑誌データベースとは方針の異なる「電子ジャーナルアクセス権保有データベース(仮称)」のデータベースモデルを検索・更新のしやすさを含め提案するとともに、ILL利用に際しての注意点も含めて考察した。現在のコーディングマニュアルも暫定的なもの¹⁾であり、NACSIS-CATの基準とする書誌モデルと理想とされるモデルが異なる場合も考えられることから、NIIの今後の展開を見守りたい。

第一部 : もう迷わない! 雑誌目録の作り方

(付 PowerPoint 資料・項目一覧表、コーディングマニュアル抜粋)

第二部 : 電子ジャーナル管理データベースのデータベースモデルと入力仕様

文献

- 1) NACSIS-CAT 目録システムコーディングマニュアル 「6.0.4 電子ジャーナルの書誌記述」
「17.0.1 電子ジャーナルの所蔵記述」

もう迷わない！雑誌目録の作り方

1. 雑誌目録作成の基礎知識

< A. 準拠する目録規則 >

日本語, 中国語, 韓国・朝鮮語: 日本目録規則1987年版改訂2版(NCR87R2)
国立国会図書館「日本目録規則」適用細則
上記以外: 英米目録規則第2版1988年改訂版(AACR2R)
Library of Congress Rule Interpretations (LCRI)

< B. マニュアル >

適用するNIIマニュアルは以下のとおり。

<操作マニュアル>

- ・目録システム利用マニュアル 入門編 (検索および登録方法の詳細)
- ・目録システム利用マニュアル 第5版 (事例等)

<入力基準>

- ・目録システム利用マニュアル・データベース編「目録情報の基準」(データベースの構造, レコード作成単位, 文字入力原則, 分かち書き等)
- ・目録システム コーディングマニュアル(データ記述方法に関する全般, 項目一覧, データ記述文法等。ルーズリーフ形式で「NACSIS-CAT/ILL ニュースレター」の付録として継続配布中。)

<その他>

- ・ NACSIS-CAT/ILL ニュースレター
- ・ オンラインシステムニュースレター
- ・ オンラインシステムニュースレター抜粋(システムの改善, 基準の解説, 検討・懸案事項等の決定報告等)
- ・ NACSIS-CAT/ILL Q&A DB 目録所在情報サービスに関する質問書/回答書データベースシステム(参加館からの質問とそれに対する回答をWWWで参照できる)

上記マニュアルは, 目録所在情報サービスホームページから利用できる。

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/home.html>

< C. 図書と雑誌の区分 >

区分の原則は, 資料の刊行方式による。資料種別は問わない。
終期を予定せずに逐次的に刊行され, 個々の出版物理単位を識別・順序付けする番号がある場合は雑誌として区分。各館の判断による。(「目録情報の基準 第4版」2.2.1)

< D. 和資料と洋資料の区分 >

準拠する目録規則は異なるが, データとして区分の別はない。

< E. 雑誌レコードの作成単位 >

- ・ 以下の場合はそれぞれ個別の書誌レコードを作成する。
 1. 本タイトルが異なるもの
 2. タイトルが総称的で, かつ責任表示が異なるもの

3. 版表示が異なるもの
4. 資料種別が異なるもの
5. 複製資料とその原本
6. 独自の巻号付けを持つ付録・補遺資料
7. 同時期に並列して異なる出版社から出版されたもの
8. 合冊誌・合刻複製版に収録されている各逐次刊行物
9. ISSN は同じであるが、タイトル、責任表示が異なるもの

・以下の場合は新規レコードを作成しない。

1. タイトルは変更されず、出版社が変更になったもの
*ただし、NOTE フィールドへは記載必要。
2. タイトルほか書誌事項がすべて同じで ISSN が異なるもの
3. タイトルほか書誌事項がすべて同じ売品と非売品のもの

< F. 書誌作成の基準とする号 >

初号主義：初号に基づいて書誌レコードの記述を行い、初号以降での変更事項は注記する。

- ・国際標準である。
- ・初号が入手できない場合は、初号最古号に基づく。
- ・情報源として初号に近いほど優先順位は高い。既存のレコードよりも初号に近い号を入手した場合は、修正を行う。
- ・初号以外での号に基づく場合は、その号について NOTE フィールドに注記する。
- ・初号の場合は NOTE に注記しない。

< G. タイトル変遷 >

ある逐次館個物のタイトルが変更になった時点で、その逐次刊行物は終期を迎え、新しい別の逐次刊行物が発生したとしてみなして、書誌レコードを別途作成する。

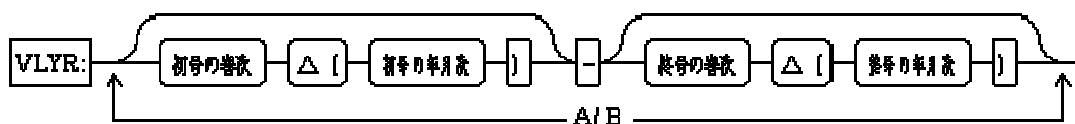
タイトル変遷の基準は、NACSIS-CAT においては 2006 年 1 月から改定を予定しているので注意すること。

タイトル変遷記載の注意点は II に別途明記する。

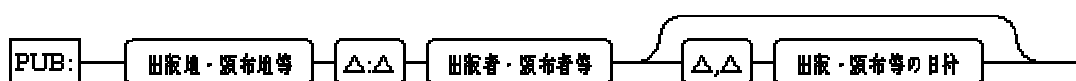
< H. 記述文法 >

III にて言及する VLYR フィールドおよび PUB フィールドの記述文法を以下に記す。

- ・ VLYR (巻次年月次: Volumes and Years of Serials)



- ・ PUB (出版・頒布等に関する事項: Publication, Distribution, etc., Area)



II. タイトル変遷時における作業注意点

次にタイトル変遷を発見した際に行う作業の中で、とりわけ注意が必要な点を列挙する。

< A. 前誌書誌修正作業の注意点 >

[A-0]

- ・ 現物から該当号が変遷直前号(終号)であることが判断できない場合は、前誌は修正しない。
- ・ 変遷直前号(終号)であることが確認できた場合は、前誌書誌を修正する。とくに以下の点に注意する。

[A-1] 変遷直前号(終号)の巻次年月次をVLYRフィールドに記入

- ・ 情報源は変遷直前号(終号)全体である。
- ・ 原則的に変遷直前号(終号)に表示されているとおりに記録する。
- ・ ハイフンに続けて記入する。
- ・ 「年月次」の記入を忘れないよう注意する。

例:[初号所蔵なし,変遷直前号(終号)所蔵あり]

VLYR:-10巻12号 (平15.12)

例:[初号所蔵あり,変遷直前号(終号)所蔵あり]

VLYR:Vol. 1, no. 1 (Jan. 1995)-vol. 5, no. 12 (Dec. 1999)

[A-2] 出版・頒布等の終了日付をPUBフィールドに記入

- ・ 情報源は変遷直前号(終号)の表紙, 標題紙, 背, 奥付である。
- ・ 情報源に出版・頒布等の開始年および月日まで記載されている場合は, 月日まで記入しても良い(年月次とは異なることに注意する)。

例:[初号所蔵あり,変遷直前号(終号)所蔵あり]

<変遷直前号(終号)奥付>

情報大学要覧 2003年度版

2004年3月発行

編集 情報大学

発行 情報大学

東京都千代田区...

東京 : 情報大学 ,1985. 4-2004. 3

例:[初号所蔵なし, 変遷直前号(終号)所蔵あり]

PUB: Westerville, Ohio : American Ceramic Society , -2004

[A-3] PUB フィールドに記載した出版・頒布終了年を, YEAR2 フィールドへ転記

- ・ 変遷直後号(終号)は所蔵しているが, 初号を所蔵していないため, 出版・頒布開始年がPUBフィールドに記入できない場合でも, 必ずYEAR1フィールドに「1---」と記入した上で, YEAR2フィールドへ出版・頒布終了日付に対応する西暦年を記入する(「1---」以外の値を推測で入力してはならない)。YEAR2フィールドのみ単独で記入できないことに注意する。

例:[初号所蔵なし, 変遷直後号(終号)所蔵あり]

YEAR:1--- 2005

例:[初号所蔵あり, 変遷直後号(終号)所蔵あり]

YEAR:1980 1995

[A-4] 変遷関係を NOTE に記入

- ・ NIIがBHNTフィールドに記入するまで時間を要するため, 注記に変遷関係を記入しておくといい。

例:

NOTE:continued by: Journal of agricultural chemistry <AA99999999>

NOTE:継続後誌: 月刊バイオテクノロジー <AA88888888>

[A-5] 出版状況コードを変更する

- ・ PSTATを「c」から「d」へ変更しておく。

< B . 前誌所蔵修正作業の注意点 >

[B-1] 所蔵年次および所蔵巻次を, HLYRフィールドおよびHLVフィールドに記入

- ・ 巻次年月次(VLYR)とは異なることに注意する。

[B-2] CONTフィールドの受入継続記号を削除

< C . 後誌新規書誌作成作業の注意点 >

[C-0]

- ・タイトル変遷を発見した場合、変遷後誌の書誌を新規作成する。
- ・変遷直後号(初号)を所蔵しているか否かで、記入内容が異なる点があるため注意する。

[C-1] 変遷直後号(初号)の巻次年月次をVLYRフィールドに記入

- ・情報源は変遷直後号(初号)全体である。
- ・原則的に変遷直後号(初号)に表示されているとおりに記入する。
- ・「年月次」の記入を忘れないよう注意する。
- ・年月次の後にハイフンをつける。
- ・変遷直後号(初号)を所蔵している場合は必須入力であるが、変遷直後号(初号)を所蔵していない場合は入力できないので注意する。

例:[変遷直後号(初号)所蔵あり]

VLYR:11巻1号 (平16.1)-

VLYR:Vol. 6, no. 1 (Jan. 2000)-

[C-2] 出版地、出版者をPUBフィールドに記入

- ・出版地および出版者の情報源は、変遷直後号(初号)の表紙、標題紙、背、奥付である。
- ・変遷直後号(初号)を所蔵していない場合は、所蔵最古号をもとに記述する。その際はNOTEに記述根拠号を記録する([C-5]参照)

[C-3] 出版・頒布等の開始日付をPUBフィールドに記入

- ・情報源は変遷直後号(初号)の表紙、標題紙、背、奥付である。
- ・西暦年で記入する。
- ・情報源に出版・頒布等の開始年および月日まで記載されている場合は、月日まで記入しても良い(年月次とは異なることに注意する)。
- ・変遷直後号(終号)を所蔵している場合は必須入力であるが、変遷直後号(終号)を所蔵していない場合は記入できないので注意する。

例:[変遷直後号(初号)を所蔵している場合]
<変遷直後号(初号)奥付>

さいたま市の経済 2004年

2005年3月発行
編集 さいたま市
発行 さいたま市
さいたま市浦和区常磐...

PUB:さいたま : さいたま市 , 2005. 3-

例:[変遷直後号(初号)を所蔵している場合]

PUB:New York : Institute of Electrical and Electronics Engineers , 2005-

例:[変遷直後号を所蔵していない場合]

PUB:さいたま : さいたま市

PUB:New York : Institute of Electrical and Electronics Engineers

[C-4] PUBフィールドに記載した出版・頒布開始年を、YEAR1フィールドへ転記

- ・ 変遷直後号(初号)を所蔵していない場合は、「1---」を記入する。推測で「1---
- ・ 西暦4桁の後にハイフンはつけない。

例:(変遷直後号を所蔵している場合)

YEAR:2000

例:(変遷直後号を所蔵していない場合)

YEAR:1---

[C-5] 変遷直後号を所蔵していない場合は、記述根拠号の巻次・年月次をNOTEに記入
・年月次の記入を忘れないよう注意する。

例:

NOTE:記述は21巻3号(平17.3)による

NOTE: Description based on: Vol. 6, no. 2 (Feb. 2005)

[C-6] NOTEに変遷関係を記入

・NIIがBHNTフィールドに記入するまで時間を要するため、注記に変遷関係を記入しておくとうまい。

例:

NOTE:continues: Journal of agriculture <AA00000000>

NOTE:継続前誌: 日本生物学会誌 <AA11111111>

< D . 後誌所蔵作成作業の注意点 >

[D-1] 所蔵年次および所蔵巻次を、HLYRフィールドおよびHLVフィールドに記入
・巻次年月次(VLYR)とは異なることに注意する。

[D-2] 必要に応じCONTフィールドの受入継続記号を記入

< E . 変遷報告作業 >

[E-1] 変遷注記用データシートを作成

[E-2] あれば変遷直前号(終号)と、変遷直後号(初号)または所蔵最古号の情報源を用意

[E-3] [E-1]と[E-2]を併せてNIIへ送付

(津久井記)

コラム <NOTE の記述具体例>

雑誌の場合、何か変更があると NOTE に変遷を記録していくが、変遷を記述する際に実際の記入具体例を探すことに手間取る場合がある。その際は NACSIS-CAT に参加組織ごとの「総合目録個別版データ」を NII からデータを CAT-P 形式で提供してもらえるので、そのデータを MS-Access で加工して NOTE データを抽出し、具体的記入例として活用する。手順の概略は次のとおり。

NII からダウンロードした雑誌データを所定場所に解凍する。
データを1行の文字列として MS-Access にインポートする。
アクセスのクエリーで文字列に Like "note=" とセットしてデータを抽出する
テキストにエクスポートしてテキストエディター等で検索して利用する。

総合目録個別版データの提供については、NACSIS-CAT/ILL ニュースレター16号(2005/03/25)を確認してください。

(磯野記)

1. NACSIS-CATの雑誌DB (冊子体)
初号主義 原則

書誌レコード記述

- 書誌レコードは初号に基づいて記述を行う。
- 初号がなければ所蔵最古号に基づく。

優先順位の原則

- より古い号を優先する。新しい号では各記述は書き換えずNOTEに記述する。

☑ 初号を所蔵していないと入力できない項目

- VLYR、PUBフィールドの出版・頒布等の日付など。

1

1. NACSIS-CATの雑誌DB (冊子体)
書誌作成 (初号あり)

書誌レコード記述例 (要点)

- VLYR
 - 1号 (昭63)-
- PUB
 - 東京：スポーツ史学会，1988.3-
- YEAR
 - 1988 不明の場合は 1--- と入力

☑ 参照マークがある場合は流用して作成。

☑ 必ず所蔵をつける。NIIに情報源を送付する。

2

1. NACSIS-CATの雑誌DB (冊子体)
書誌作成 (初号なし)

書誌レコード記述例 (要点)

- VLYR
 - 記入しない。
- PUB
 - 東京：スポーツ史学会 出版年は記入しない。
- YEAR
 - 1--- と入力。
- NOTE
 - 記述は3号 (1988.12)による など根拠号を明示する。

☑ 参照マークがある場合は流用して作成。

☑ 必ず所蔵をつける。NIIに情報源を送付する。

3

1. NACSIS-CATの雑誌DB (冊子体)
その他のタイトルの記入 (VT)

☑ 初号あり

- タイトルの表示箇所に関わる「タイトルの種類」コードとともにVTフィールドに記入する。
 - 標題紙タイトル TT:
 - 表紙タイトル CV:
 - 裏表紙タイトル BC:
 - 背表紙タイトル ST:

☑ 初号なし

- 標題紙タイトル・表紙タイトル・背表紙タイトル・裏表紙タイトルなどの「タイトルの種類」コードは使用しない。
 - すべて OH: として記述する。表示箇所などの説明はNOTEへ。

☑ NIIに情報源を送付する。

4

1. NACSIS-CATの雑誌DB (冊子体)
書誌修正 (初号以外 初号)

書誌修正箇所 (要点)

- VLYR 初号巻次、初号年月次記入
- PUB 初号の出版年月記入
- YEAR 初号の出版年記入

☑ 初号が現れたので、上記3項目は初号での表記に変更する。

- NOTE
 - NOTEの記述根拠号を削除する。
 - その他のタイトルも初号のものに変更する。変更したものはNOTEに変遷を記入する。

☑ NIIに情報源を送付する。

5

1. NACSIS-CATの雑誌DB (冊子体)
書誌修正 (初号・最古号 最新号)

書誌修正箇所 (要点)

- 初号以外の号で責任表示・出版地・出版者等に追加変更が生じた場合は、NOTEへ記入
- データの根拠となった号の巻次・年月次の記入を忘れないこと。
- NOTE記入例
 - NOTE: 出版者変更: 日本評論新社 (-354号 (昭38.12.21)) 判例時報社 (355号 (昭39.1.11))-)
 - NOTE: 大きさ変更: 26cm (24巻 (1998)) 30cm (25巻 (1999))-)
- 責任表示の追加変更の場合は、ALフィールドの著者名典拠のリンクを忘れず形成する。

☑ NIIに情報源を送付する。

6

1. NACSIS-CATの雑誌DB(冊子体) 雑誌所蔵データ記入

✦ 記入方法

- HLYR 最古年次-最新年次
 - 2000-2005
- HLV 巻レベル(号レベル) 2階層の表記を優先。
 - 2(2,4),3(4),5(3) **継続している場合** 2-4
 - 2()-5()
- Ⓢ 欠号がある場合、上記のどちらかのパターンに統一する。
- CONT
 - + を入力すると継続意志があるとみなされる。
- Ⓢ 所蔵データは必ず作成する。

7

2. 変遷時の注意点 変遷前誌書誌の修正

✦ 前誌が終号と確認できた場合の記入方法

- VLYR
 - 修正前=VLYR:1巻1号 (平1.4)-
 - 修正後=VLYR:1巻1号 (平1.4)-**10巻12号 (平10.3)**
- PUB
 - 修正前=東京 : 情報大学 , 1985. 4-
 - 修正後=東京 : 情報大学 , 1985. 4-**1995. 3**
- YEAR
 - 修正前=YEAR:1---
 - 修正後=VLYR:1--- **2005**

8

2. 変遷時の注意点 変遷前誌書誌の修正

✦ 前誌が終号と確認できた場合の記入方法

- NOTEに変遷関係を記入する。
 - 変遷後誌: バイオサイエンス <AA00000022>
- Ⓢ NIIがBHNT.FIDフィールドに記入するまで時間がかかるため、**注記に変遷関係を記入するとより良い。**
- ✦ 所蔵年次・巻号等の記入
 - HLYR・HLVに所蔵年次・巻号を記入する。
 - CONTの + を削除。
- Ⓢ 前誌が終号と確認できなかった場合は、この処理は行わない。
- Ⓢ 変遷シートと情報源をNIIに送付する。

9

2. 変遷時の注意点 変遷後誌書誌の作成(初号あり)

✦ 後誌の初号がある場合の記入方法

- (初号がある場合の新規書誌作成に準ずる。)
- VLYR
 - VLYR:13巻1号 (平1.4)-
 - PUB
 - PUB:東京 : 情報大学 , 1985. 4-
 - YEAR
 - YEAR:1985
 - Ⓢ 必ず所蔵をつける。
 - Ⓢ 変遷シートと情報源をNIIに送付する。

10

2. 変遷時の注意点 変遷後誌書誌の作成(初号なし)

✦ 後誌の初号がない場合の記入方法

- (初号がない場合の新規書誌作成に準ずる。)
- VLYR
 - 記入しない。
 - PUB
 - 東京:スポーツ史学会 出版年は記入しない。
 - YEAR
 - 1--- と入力。
 - NOTE
 - 記述は3号(1988.12.1)による など根拠号を明示する。
 - ✦ 所蔵年次・巻号等の記入
 - HLYR・HLVに所蔵年次・巻号を記入、CONTに + を記入。
 - Ⓢ 必ず所蔵をつける。
 - Ⓢ 変遷シートと情報源をNIIに送付する。

11

2. 変遷時の注意点 雑誌変遷処理時の注意点

✦ 変遷シートの記入。

- 継続・派生・吸収関係を図解し記入。
- 書誌ID・誌名・年次巻号・変遷ファミリーIDなどを記入して、「変遷注記用データシート」を仕上げる。
 - NACSIS-CAT/ILLニュースレター16号(2005/3/25)
- Ⓢ 変遷シートをNIIに送付する。
- Ⓢ 変遷直前号(終号)と変遷直後号(初号または所蔵最古号)の情報源を用意し、NIIに送付する。

12

もう迷わない！雑誌目録の作り方(入力項目一覧) - 書誌編 -

	項目名	マニュアル抜粋	注意事項	入力レベル	新規作成(初号あり)	新規作成(初号なし)	修正時(初号出現)	修正時(記述根拠より古い号出現)	誌名変遷(変遷前誌)終号あり	誌名変遷(変遷前誌)終号なし
コードブロック	ID : 書誌レコードID			自動付与						
	MARCST : 更新タイプ			不使用						
	MARCFLG : 変更ありフラグ									
	CRTDT : レコード作成日付									
	RNWDT : 最終レコード更新日付									
	GMD : 一般資料種別コード		紙媒体以外記入。複製の場合は複製の媒体を記入。	必須2 選択						
	SMD : 特定資料種別コード									
	YEAR 1 : 刊年 1		出版年。複製の場合原本の出版年を記入し、NOTEへ注記。	必須1		1---		1---		
	YEAR 2 : 刊年 2			必須2						x
	CNTRY : 出版国コード		PUBの最初の出版国。	必須2						
	TITL : 本タイトルの言語コード			必須1						
	TXTL : 本文の言語コード			必須1						
	ORGL : 原本の言語コード			選択						
	REPRO : 複製コード		複製版は「c」。	選択						
	PSTAT : 出版状況コード		刊行中「c」、廃刊「d」。複製の場合記入しない。	選択						
	FREQ : 刊行頻度コード		刊行頻度により修正。複製の場合記入しない。修正した場合はNOTEに変遷を記入。	必須2						
	REGL : 定期性コード		定期刊行物「r」。複製の場合記入しない。	必須2						
	TYPE : 逐次刊行物のタイプコード		通常「p」。複製の場合記入しない。	必須2						
	ISSN : 国際標準逐次刊行物番号		最新のものを。複製版の場合は複製版のものを記入。	必須2						
	XISSN : 取消 / 無効		古いもの、誤植。複製版があれば記入。	必須2						
LCCN : LC カード番号										
NDLPN : NDL 雑誌番号		複製版のものを記入。	選択							
CODEN : CODEN		複製版のものを記入。	必須2							
ULPN : ULP 番号			選択							
GPON : GPO 番号			選択							
記述ブロック	TR : タイトル及び責任表示に関する事項		基本的に修正しない。責任表示の変更はNOTEへ、その他のタイトル(並列タイトルなど)はVTとNOTEへ。和は表紙、洋は標題紙を主情報源とする。	必須1						
	ED : 版に関する事項		複製版、CDROM版など	必須2						
	VLJR : 巻次年月次		雑誌の生没年記録、所蔵年次・巻次とは異なるので注意。複製版の場合は原本のものを記入。	必須2	-	x	-	x	-	-x
	PUB : 出版・頒布等に関する事項		出版者変更はNOTEへ記入。複製版の場合は複製版のものを記入し、NOTEへ原本の出版事項記載。	必須1	;	;	;	;	;	;
	PHYS : 形態に関する事項		刊行中は「冊」「v」。複製版の場合、複製版のものを記入。大きさが変更された場合は修正の上NOTEへも記入。	必須2						
	VT : その他のタイトル		主情報源以外のタイトルを記入。初号(最古号)以外は出現巻号・場所をNOTEに記入。	選択	全コード使用可	OHのみ使用可	全コード使用可	OHのみ使用可		
	NOTE : 注記		記述根拠、その他のタイトル情報、出版者・責任表示・その他変更に関する変更情報記入。	選択		記述根拠号記入	記述根拠号削除。出版者変更の場合はここへ記入。	記述根拠号修正	変遷関係記入	変遷メモ記入
PRICE : 価格 / 入手条件			選択							
変遷ブロック	FID : 変遷ファミリーID		記入不可。NIIで記入。	センター	x	x	x	x	x	x
	BHNT : 変遷注記		記入不可。NIIで記入。	センター	x	x	x	x	x	x
リンクブロック	AL : 著者名リンク		著者リンク。	必須2						
主題ブロック	SH : 件名等			必須1・2・選択						
	IDENT : アクセス先に関する事項									
	REM : 非転写フィールド(参照ファイルで表示)									

慎重に修正作業を行う

必須1: 目録担当者は、必ずデータ記入を行う
必須2: 目録担当者は、適用可能な情報、又は容易に入手可能な情報が存在する場合、常にデータ記入を行う

必須項目 x 記入不可

もう迷わない！雑誌目録の作り方（入力項目一覧表） - 所蔵編 -

A.主な所蔵レコード

A-1. 所蔵レコードは各参加機関固有のデータである。

A-2. 所蔵レコードには3つ特徴的なフィールドがある。

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1.HLYR (所蔵年次データ) | HLYR:最古年次-最新年次 |
| 2.HLV (所蔵巻次データ) | HLV:X(y) Xは巻レベル、yは号レベル |
| 3.CONT (受入継続表示) | CONT:+ 継続予定は+、未定は空白 |

記入の原則

B.主なレコードの注意点を以下に記す。

項目名		マニュアル抜粋	注意事項	入力レベル
ID	所蔵レコードID			自動付与
CRTDT	レコード作成日付			
RNWDT	レコード修正日付			
BID	NC書誌レコードID			
FANO	参加組織レコードID		各参加機関があらかじめ「目録システム申請書」申請し、NIより付与されたID	センター
LIBABL	略称		各参加機関より、あらかじめ「目録システム申請書」で登録された略称名で付与される。	自動付与
LOC	配置コード		各参加機関の所蔵する資料の配置場所等を、あらかじめ目録システムに申請・登録されたコードで記録する。 ・資料の配置場所等に対応する、配置コードを記入する。[記入例] LOC:図 ・配置コード「空値」の場合 [記入例]LOC:	必須2
HLYR	通し年月次	17.2.1D D1,D5 D2 D3 D4 D6	所蔵する資料の巻次に対応する年次の範囲をデータ要素として記録する。 ・VLYRフィールド(巻次・年次に関する事項)の範囲を超えない。特にタイトル変遷には注意する。 ・所蔵する資料の号の中から、年次が最も古い号と最も新しい号を選択し、それぞれの号に対応する年次をハイフン(-)で結んで記入する。 「記載例」1998年 - 2005年 VLYR:1998-2005 ・中途に欠号が存在しても、データが連続していないことを示す必要はない。 ・4桁の西暦紀年を、アラビア数字を使用して記入する(2桁のものは4桁になおして記入する)。 ・西暦紀年以外の年次表示(元号、イスラム暦等)をもつ号に対しては、西暦紀年に変換して記入する。 ・所蔵する号の年次が同一年内に収まる場合(1号だけしか所蔵していない場合を含む)もその同一年を二つ記入し、ハイフン(-)でつなぐ。 ・所蔵範囲内で巻次変更がある場合は、変更年次間にセミコロン(;)を記入する。セミコロンの前後には空白を入れない。 ・複数年にまたがる年次の場合は、「最古年次」には最も古い年を、「最新年次」には最も新しい年を採用する。	必須1
HLV	巻号	17.2.2D D1 D2 D7.1 D7.2 D8.2 D4,D10 D10(4) E6 E11	実際に所蔵する資料の巻次をデータ要素として記録する。 ・VLYRフィールド(巻次・年次に関する事項)の範囲を超えない。 ・所蔵する最初の号から最新の号までの巻次を記入する。 ・所蔵している号の巻次を記入し、欠号巻次は記入しない。 ・データは「巻レベル」と「号レベル」2階層で表現する。 ・逐次刊行物を構成する個々の資料に対して、番号等による順序付けを行う。「X(y)」 Xは巻レベル、yは号レベル ・巻次データは巻レベルを基準として記入する。巻レベルの数字の後、巻レベルに從属する号レベルの数字を括弧に収めて記入する。 「記入例」I23巻3号 HLV:23(3) ・号レベルでの欠号がない場合(=完全巻)は、巻レベルのデータのみ記入する。号レベルの記入は行わない。 ・数字以外の以外の字句や、元号、は削除し、記載はアラビア数字を使用する。西暦2桁のものは4桁になおして記入する。 ・不完全巻の表示(号レベルの欠号が1冊でもある巻)は2つの方法で所蔵状態を記入する。 (1)括弧書き内に実際に所蔵する号レベルの数字を列記する。 (2)号レベルの数字を記入せずに丸括弧だけ添える。 (2)の方法に限り不完全巻ばかりの連続所蔵をハイフン(-)で結んで、記入することができる。 巻次変換がある場合 ・所蔵巻次内に巻次変更がある場合はセミコロン(;)を挿入する。セミコロンの前後に空白をいれない。 ただし、タイトルに「2nd Series」や「New Series」など逐次刊行物全体に関わる番号付けの追記削除は巻次変遷とはみなさない。 ・ハイフンで結ぶことのできるものは、下記ケースに限る。 (1)号レベルの相互、(2)完全巻の相互、(3)括弧のみを添えた形の不完全巻相互 ・巻次変更が存在するが、変更直前直後の号を所蔵していない場合であっても、変更前の巻次と変更後の巻次の間にはセミコロンを記入する	必須1
CONT	受入継続表示		CONTフィールドには、目録対象資料についての受入継続予定の存在をコード化して記入する。 目録対象資料を、所蔵する最新の号以降も継続して受け入れてゆく予定がある場合は[+]を記入する。 [+]は継続所蔵を意味するものではないので、必ず所蔵する最新の号のデータまで記入した上で記入する。	必須2
CLN	請求番号		記述対象資料にかかわる参加館の記号をデータ記録できる。[記入例]CLN:Z40]S 複数の請求記号(例えば、複本等の請求記号)を記録することができる。 各請求記号の間を区切る記号は、各参加館が定めるものとする。[記載例]CLN:UNBOUND] D	選択
LDF	図書館定義フィールド		雑誌書誌レコードに記録できないが、各参加組織が必要とする、記述対象資料にかかわる情報を記録するために設けられたフィールドである。 記述対象資料にかかわる各種情報を記録できる。	選択
CPYNT	コピーノートフィールド		当該電子ジャーナルについて、ILLサービスにおいて利用できる場合、フィールド冒頭に「ILL可」と記述する。 [記入例]CPYNT:ILL可	
LTR	ローカルトレーシング		書誌レコードに記録される標準的な標目以外に、各参加組織が必要とする独自の標目を記録する。	選択

(澤田記)

コーディングマニュアル 第6章和雑誌書誌レコード 抜粋

6.0.3 総称的タイトル

逐次刊行物のタイトルが総称的な語からなる場合、他の逐次刊行物との識別を容易にするため、TR フィールドには必ず責任表示を記録する。(6.2.1F5.4, 6.2.1F5.5)

6.0.3A (判定基準)

総称的なタイトルであるかどうかの判定は、次のような基準に従い行う。(7.0.3)

(1) ISDS における総称的な語の定義は、「出版物の種類及び(または)頻度を示すもの」である。各々の判断は、この定義によるものとする。

(例)

会議録	月報	速報
会誌	研究	年報
会報	研究報告	プログラム
概要	広報	報告
季報	雑誌	報告書
紀要	資料	要覧

(2) タイトル中に主題内容や範囲を示す語を含む(あるいはこれらの語によって構成されている)場合は、総称的とはみなさない。

(例)

近代文学研究
経済
経営研究
人類学研究
天文学
行動科学研究
化学雑誌
科学
医学中央雑誌

(3) タイトル中に出版物の頻度または種類を示す語以外のものを含む場合は、通常総称的タイトルとみなさない。

(例)熊本市勢要覧

健康管理年報

6.1 コードブロック

6.1.5 YEAR

6.1.5E (データ記入及び記入例)

E1

刊年 1、及び刊年 2 には、4 桁の西暦年を記入する。

刊年 1 と刊年 2 の間には、1 桁のスペースを記入する。

YEAR:1988 1990

PUB:京都 : 同朋社出版(発売), 1988.6-1990.11

YEAR:1986 1990
PUB:東京 : 三井銀行調査部 , 1986-1990

YEAR:1990
PUB:三鷹 : 国立天文台 , 1990-

E2

出版が開始された年内に出版・頒布が終了した場合は、その同一西暦年を刊年 1 としても刊年 2 としても記入する。

YEAR:1987 1987
PUB:東京 : 交通協力会 , 1987

E3

出版日付と頒布(発売等)日付が異なる場合は、出版日付に対応する西暦年を記録する。

YEAR:1987
PUB:東京 : ユーロマネー東京事務所 , c1987-

YAR:1953
PUB:東京 : 日本鉄鋼協会 , 1953 印刷-

E4

明確な出版・頒布日付の表示がないために、著作権表示年、印刷年、製作年、序文・あとがき等の日付、推定による出版・頒布日付を PUB フィールドに(複製資料の場合は NOTE フィールドに)記入した場合は、それらの日付に対応する西暦年を記録する。

・初号あるいは終号に出版・頒布年の表示がなく、かつ著作権表示年(又は印刷年)の表示もない場合

YEAR:1983
PUB:[東京] : 国際交流基金 , 1983 序-

・初号、あるいは初号と終号の双方を所蔵しているが、出版・頒布年の表示がないため、規定の情報源以外からの情報を記録する、あるいは情報を推定補記する場合

YEAR:1977
PUB:東京 : 全日本舞踊連合 , [1977]-

YEAR:1972 1976
PUB:大阪 : 大阪府医師会 , 1972-[1976]

YEAR:1966 1970
PUB:東京 : 音楽之友社 , [1966]-[1970]

E5

出版・頒布日付に対応する西暦年が不明の場合は、不明部分の数字をハイフンで代用する。

YEAR:19--
PUB:大阪 : 日本貿易振興会大阪支部 , [19--]-

E6

初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年が PUB フィールドに記入できない場合でも、刊年 1 には「1---」を記入する(初号を所蔵していない場合、PUB フィールドには出版・頒布開始年を推定記入してはならない)。

・終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないために出版・頒布開始の日付が確認できない場合

YEAR:1--- 1990

PUB:東京 : 経済調査会出版部 , -1990

NOTE:記述は No. 726 (昭 36. 11)による

・初号と終号の双方を所蔵していないために出版・頒布開始及び出版・頒布終了の日付が共に確認できない場合(刊行継続中のため、終号が事実上存在しない場合を含む)

YEAR:1---

PUB:岡山 : 日本細胞生物学会

NOTE:記述は No. 2 (1974. 8)による

E7

複製資料の場合は、原本の出版・頒布開始の日付に対応する西暦年を刊年 1 に、原本の出版・頒布終了の日付に対応する西暦年を刊年 2 に記入する。

YEAR:1951 1971

PUB:京都 : 臨川書店 ,1985

NOTE: 原本の出版事項: 東京 : 俳文學會 , 1951-1971

6.1.5F (注意事項)

F1 刊年 1 及び刊年 2 には、年月次データを記入してはならない。

F2 同一の号が何刷も重ねて出版されている場合、刊年 1、及び刊年 2 には、初刷の出版・頒布年を記入する。

F3 複製資料の場合、刊年 1 及び刊年 2 には、複製時の出版・頒布年を記入してはならない。

F4 終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年が PUB フィールドに記入できない場合は、必ず刊年 1 に「1---」と記入したうえで、刊年 2 を記入する。刊年 2 のデータだけを単独で記入してはならない。

F5 刊年 1 と刊年 2 の間には、スペース以外の文字を記入してはならない。

6.1.6 CNTRY

6.1.6E6. (データ記入及び記入例)

刊行時点での出版国コードと現在の出版国コードが異なる場合

CNTRY:ja

PUB:那覇 : 沖縄公論社 , 1961-

CNTRY:ur

PUB:豊原 : 樺太商工經濟會 , 1943-

6.1.8 TXTL

6.1.8E 注意事項)

E3

初号(あるいは記述の根拠となった所蔵最古号)の本文に限らず、以降の全巻号の本文の言語についてデータ記入を行う。したがって、従来使用されていなかった言語によるテキストが掲載されるようになった場合には、その言語に対応するコードを追加記入する。

E4

本文が複数の言語で書かれている場合(ただし、6言語以下)は、当該目録対象資料において優勢な言語の順にコードを記入する。それぞれのコードは、間にスペースを置かず、続けて記入する。優勢な言語の順位を確定できない場合は、言語コードのアルファベット順にコードを記入する。

TXTL:jpnengfreger

E5

本文が7つ以上の言語で書かれている場合は、主たる言語に対応するコードを1つだけ選択し、当該コードを記入する。さらに、当該コードに続けて、コード「mul」(多言語)を記入する。主たる言語を確定できない場合は、コード「mul」のみを記入する。

TXTL:jpnmul

E6

本文が複数の言語で書かれていても、多言語で書かれていること自体にさしたる意味がない場合は、主たる言語に対応するコードを1つだけ選択し、当該コードを記入する。さらに、当該コードに続けて、コード「mul」を記入する。主たる言語を確定できない場合は、コード「mul」のみを記入する。

TXTL:jpnmul

TR:国立国会図書館所蔵科学技術関係欧文会議録目録 / 国立国会図書館専門資...

6.1.18 CODEN

6.1.18E(データ記入及び記入例)

CODEN フィールドには、目録対象資料に対して米国材料試験協会(American Society for Testing and Materials)、Chemical Abstracts Service(1975年以降)が付与した誌名識別用コード、CODENを記入する。

CODEN:JUNKAU

CODEN:KEIKA6

CODEN:NIPEA

6.1.18F(フィールドの繰り返し)

F1 同一資料に複数のCODENが付与されている場合は、最新のものをCODENフィールドに記入する。

F2 同一資料に5桁のものと6桁のもの2種類のCODENが付与されている場合は、6桁のものをCODENフィールドに記入する。

F3 CODENフィールドに記入しなかったCODENは、NOTEフィールドに記入できるが、これは選択事項である。

6.1.18G (注意事項)

CODEN フィールドにかかわるエラーメッセージが表示された場合は、桁数不足(4 桁以下)や誤植などの原因のため、記入した番号は不正である。

不正な番号を CODEN フィールドに記入してはならない。

なお、CODEN フィールドに記入しなかった CODEN は、NOTE フィールドに記入できるが、これは選択事項である。

6.2 記述ブロック

6.2.1 TR

F1.2(2 つ以上の言語で表示されてある場合)

同一情報源に異なるタイトルの表示がある場合、より顕著に表示されているものを本タイトルとする。(NCR87R 13.1.1.1C)

本タイトルとして記録しなかったものは、並列タイトルとする。

F1.4(回次・日付などを含むタイトル)

本タイトル中に、号ごとに変わる回次、日付などが含まれる場合は、この部分を省略する。(NCR87R 1.1.1.1B イ)

F2(従属タイトル)

F2.1(データ記入の原則)

従属タイトル部には、部編記号(番号付け、アルファベットなどによる部編の順序付けの表示)、部編名、またはその両方が含まれる。(→ NCR87R 13.1.1.1A)

共通のタイトル部分と従属タイトル部分は、ピリオド、スペース()で区切って記録する。

このような場合は、主情報源に表示された本タイトル各部分の構成順序にこだわらない

TR:日本女子大学紀要. 家政学部||ニホン ジョシ ダイガク キョウ. カセイガクブ

F2.2(部編記号がある場合など)

従属タイトル部が、部編記号と部編名からなる場合は、その間をコンマ、スペース()で区切って記録する。

TR:記録. 別冊, 判例紹介||キロク. ベッサツ, ハンレイ ショウカイ

従属タイトル部が 2 以上の階層を持つ場合は、上位にあたるものから順に、ピリオド、スペース()で区切る。

TR:金沢大学教育学部紀要. 自然科学編. 地学教室業績||カナザワ ダイガク キョウイク ガクブ キョウ. シゼン カガクヘン. チガク キョウシツ ギョウセキ

F2.3(独自のタイトルを持つ部編資料)

別個に出版され、独自のタイトルを持ってはいるが、他の逐次刊行物の部編にあたる出版物の場合、主情報源に共通タイトルが表示されていれば、それらを組み合わせた形で本タイトルを記録する。

共通タイトルが主情報源上に表示されていない場合は、従属タイトルだけを TR に記録する。共通タイトルは「その他のタイトル」として、VT フィールドに「タイトルの種類コード」(PT)と共に記録する。(6.2.6F6.1)

ただし、共通タイトルが主情報源以外の箇所には表示されておらず、従属タイトルがそれぞれ単独では固有のタイトルとならない場合は、例外として、共通のタイトルと従属タイトルが共に表示されている箇所を本タイトルの情報源とし、それらをあわせたものを本タイトルとして記録する。この場合、情報源の箇所について、NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.5)

NOTE:共通タイトル部は奥付による

F2.4 (従属タイトルが主情報源上にない場合)

主情報源上に共通タイトルが表示され、目録対象資料の他の箇所に従属タイトル表示がある場合は、従属タイトルを角がっこ([])に入れて補記し、その情報源を NOTE フィールドに記録する。

TR:国際関係研究. [特集編||コクサイ カンケイ ケンキュウ. トクシュウヘン

NOTE:従属タイトル部は奥付による

F2.5 (共通タイトルが不安定な場合)

共通タイトルが従属タイトルと同一情報源上にあったりなかったりする場合、または号によって表現がまちまちである場合、この共通タイトルは TR フィールドには記録せず、VT フィールドに「タイトルの種類コード」(PT)と共に記録する。(6.2.6F6.2)

F2.6(付録・補遺資料)

主情報源に、ある逐次刊行物のタイトルとその付録や補遺であることを示す表示がある場合、本体にあたる逐次刊行物のタイトルを共通タイトルとして記録し、ピリオド、スペース(.)に続けて、付録や補遺である表示を記録する。

また、付録や補遺を示す語が、本体のタイトルと結びついて 1 つのタイトルになっている場合は、その表示の通りに記録する。

TR:埼玉大学紀要. 増刊||サイタマ ダイガク キョウ. ソウカン

TR:別冊みづゑ||ベッサツ ミズエ

ただしこれは、付録や補遺が本体とは別の独自の巻号付けを持つ場合に限る。本体と同一の巻号付けを持つ場合は、別レコードを作成しない。

F2.8(逐次刊行物全体の順序づけを表す表示)

「新編」、「II」あるいはこれと類似した、年代順のシリーズ呼称を表す表現が加わった逐次刊行物は、先の逐次刊行物と区別して新たなレコードを作成する。先の逐次刊行物と共通するタイトルの後、ピリオド、スペース(.)に続けて「新編」などの表示を記録する。(NACSIS 独自規定)

TR:科学技術文献総覧. 新輯||カガク ギジュツ ブンケン ソクホウ ソウラン. シンシュウ

TR:エビステーマー. II||エビステーマー. 2

TR:海外大学経営セミナー報告書. 第 2 次||カイガイ ダイガク ケイエイ セミナー ホウコクシヨ. ダイ 2 ジ

F3(並列タイトル)

並列タイトルは、本タイトルと同一の情報源上に表示された本タイトルの別言語・別文字による表現である。(NCR87R 1.1.3.1)

F3.1(データ記入の原則)

並列タイトルは、本タイトルに続けて記録する。(NCR87R 1.1.3.2, 13.1.3.2 別法)

本タイトルと並列タイトルは、スペース、等号、スペース(=)で区切って記録する。

TR:シュトイエル = Steuer||シュトイエル

TR:Lumière = 季刊映画リュミエール||Lumière = キカン エイガ リュミエール

6.2.3 VLYR

6.2.3F(データ記入及び記入例)

F1(データ記入の原則)

F1.1(巻次の転記)

巻次の転記は、数詞・数字は原則としてアラビア数字を用いる。巻次の「第」の字は省略する。(NACSIS 独自規定)

欧文表記の場合は、各言語の大文字使用法、標準的な略語・数詞に変換して記録する。(NCR87R 付録 2)

VLYR:1 輯

VLYR:1 回 (表記は「第 1 回」)

VLYR:1 巻 1 號

VLYR:Vol. 1, no. 1

F1.2(年月次の転記)

年月次は、対応する巻次に続けて丸がっこ(())内に記録する。転記にあたっては、数詞・数字は原則としてアラビア数字を用いる。

明治以降の元号は、頭 1 字のみに短縮する。「年・月・日」「号・版・度」など年月次の数字に付随する文字は、省略する。(NACSIS 独自規定)

欧文表記の場合は、各言語の大文字使用法、標準的な略語を使用して記録する。(NCR87R 付録 2)

VLYR:1 巻 1 号 (大 1.12)-

VLYR:1 輯 (明 41.5)-

VLYR:1 次 (明 6.7)-65 次 (昭 15)

VLYR:1 回 (昭 61.2)-

F2(巻次・年月次の記述)

F2.1(初号・変遷直後号の記録)

初号・変遷直後号の巻次年月次とハイフン(-)を記録する。

VLYR:1 集 (昭 59.5)-

VLYR:-240 号 (昭 18.12) ; 1 巻 1 号 (昭 23.10)-

F2.2(継続刊行途中号の記録)

初号の巻次・年月次が既に記録されている場合は、何も記録しない。

F2.3(終号・変遷直前号の記録)

ハイフン(-)と終号・変遷直前号の巻次・年月次を記録する。

VLYR:-復刊 4 号 (昭 62.10)

VLYR:-132 回 (明 43.6)

F2.4(初号に巻次・年月次の表示がないもので推測可)

初号に巻次・年月次の表示がない場合、それに続く号で順序づけと見なせる数字・記号が出現する場合、その表示方法に従って、初号の巻次・年月次を補記することができる。(NCR87R 13.3.1.1)

VLYR:創刊[1]号 (1991.3)-

VLYR:創刊準備[0]号 (1981.11)-

VLJR:[昭和 33 年上期 (昭 33.上期)]-

F2.5(巻次がない場合)

巻次の表記が全く現れない場合は、年月次を代用して記録する。(NACSIS 独自規定)

巻次が途中で消滅した場合には、巻次変更の扱いが必要である。

VLJR:平成元年 1 月号 (平 1.1)-

VLJR:昭和 41 年 (昭 41)-昭和 49 年 (昭 49)

VLJR:1 巻 (昭 40)-4 巻 (昭 43) ; 昭和 44 年 (昭 44)-

(5 巻以降には、巻次表示が現れない)

F2.6(年月次がない場合)

年月次の表示が全く現れない場合や、途中で消滅した場合には、出版年、頒布年などを補記する。(NCR87R 13.3.2 別法、補記については NACSIS 独自規定)

VLJR:28 巻 7 号 ([平 1.3])-

F2.7(合併号の場合)

記入すべき号が合併号である場合、合併号を一つの号であると見なし、号を切り分けては記録しない。その場合の接続記号は、表紙などに用いられている表示をそのまま記録する。

VLJR:昭和 34 ~ 35 年度 (昭 34 ~ 35)-昭和 63 年度 (昭 63)

VLJR:1 号 (1951.12)-149-150 号 (1989.3)

VLJR:1 巻 1・2 号 (平 1.4・5)-

VLJR:6/7/8 号 (1964/1965/1966)-

F2.8(単一の号しか刊行されなかった場合)

単一の号しか刊行されなかった場合は、その号が初号でありまた終号であると見なし、その号の巻次・年月次を 2 つ記入し、ハイフン(-)でそれらをつなぐ。(NACSIS 独自規定)

VLJR:1 号 (1960.11)-1 号 (1960.11)

F4(巻次・年月次表示の変更)

巻次の取り方が変更になった場合、旧方式による初号、終号の巻次・年月次を記録したあと、スペース、セミコロン、スペース(;)に続いて新方式による巻次・年月次を記録する。(NCR87R 13.3.1.3)

ただし、以下のような方法を採用する。(NACSIS 独自規定)

F4.1(優先順位が上位の表示方法が出現した場合)

VLJR:1 号 (昭 60.2)-12 号 (昭 60.12) ; 1 巻 1 号 (昭 61.1)-

F4.2(優先順位が上位の表示方法が消滅した場合)

優先順位が下位であった表現方法を繰り上げて使用する。

VLJR:1 巻 1 号 (平 2.1)-1 巻 12 号 (平 2.12) ; 13 号 (平 3.1)-

F4.3(巻次の数字が後退、反復、極端に飛躍した場合)

VLJR:1 巻 (平 2.1)-12 巻 (平 2.12) ; 1 巻 (平 3.1)-

このような場合、別に書誌レコードを作成すべき場合もある。出版者や編集者の意図から継続関係の十分な調査が必要である。(0.4.3B4)

F4.4(年月次表示形式が変更の場合)

年月次の変更は巻次変更とは見なさず、記録しない。ただし、巻次表示がないために、年月次を

代用して巻次としている場合には、巻次変更と同様の扱いとし、スペース、セミコロン、スペース (;) に続けて、新しい年次を記録する。

年号が年次となっている場合で、改元前と改元後の年号の双方が併記されている場合は、原則として改元後の年号を記録する。双方が併記されている期間については、NOTE フィールドに記録する。

VLYR:-昭和 64 年版 (昭 64) ; 平成 2 年版 (平 2)-

VLYR:-昭和 64 年 1 月 1 日 (昭 64.1.1) ; 平成 2 年 1 月 1 日 (平 2.1.1)-

VLYR:-昭和 63 年平成元年度 (平 1)-

F5(巻次変更とは見なさない場合)

F5.1(巻次の呼称の変化)

単なる呼称の変化は、巻次変更とはしない。

F5.2(巻次体系の階層は変化するが、巻レベルの数値が一貫している場合)

VLYR:1 巻 (平 2.1)-

× VLYR:1 巻 (平 2.1)-12 巻 (平 2.12) ; 13 号 (平 3.1)- のようには記録しない。

F5.3(他の逐次刊行物と巻次体系を共有している場合)

他の逐次刊行物と巻次体系を共有しており、そのために巻次が不連続になる場合は、巻次変更とはしないで、NOTE フィールドにその事実を記録する。

第一分冊が、1 巻 1 号、1 巻 3 号、1 巻 5 号

第二分冊が、1 巻 2 号、1 巻 4 号、1 巻 6 号

F5.4(誤植による巻次の数値の後退、反復、飛躍の場合)

誤植による巻次の乱れは、巻次変更としない。誤植の事実については、NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.12)

F5.5(巻次が反復する場合)

「巻」に相当するものがなく、号数のみが反復する場合には、号数が元に戻るたびに巻次変更とはせず、適宜の巻(年次など)を補記し、巻次が一貫するように記録する。

VLYR:[1990], 1 (1990.1)-[1991], 12 (1992.12)

× VLYR:1 (1990.1)-12 (1990.12) ; 1 (1991.1)-12 (1992.12) のようには記録しない。

F6(資料全体の順序づけを示す表示)

資料全体の順序づけを示す表示(「II」、「第 2 次」など)の変更・追加は、巻次変更とはせず、タイトル変遷と見なし、別書誌を作成する。(NACSIS 独自規定)(6.2.1F2.8)

F7(巻次・年月次に関する注記)

巻次・年月次について説明する必要があるときは、NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.12)

NOTE:号外: 昭和 32 年 9 月, 昭和 47 年 3 月

6.2.4 PUB

6.2.4F (データ記入及び記入例)

F4(出版年・頒布年)

出版年は、西暦紀年で記録する。(NCR87R 1.4.3.2A)
ただし、必要に応じ他の暦の付記、補記をする条項は採用しない。
通常は、年までのレベルで十分だが、必要に応じて月、日をピリオド(.)で区切って記録してもよい。

F4.1 (出版年が年次表示と一致する場合)

出版年が年次表示と全部または一部が一致する場合も、これを記録する。

TR:新しい家庭科 We||アタラシイ カテイカ we
VLJR:1 巻 1 号 (1982.3)-10 巻 12 号 (1992.1)
PUB:調布 : ウィ書房 , 1982-1992

F4.2 (出版年が不明の場合)

初号あるいは終号を所蔵していない場合は、出版年は記録しない。

PUB:東京 : 科学新聞社 , -1991 (初号を未所蔵)
PUB:東京 : 外務省 (初号, 終号共に未所蔵)

初号あるいは終号を所蔵しているが、出版年の表示がなく不明の場合は、頒布年、著作権表示年、製作年を記録する。(NCR87R 1.4.3.1A)

PUB:浦和 : 国際交流基金日本語国際センター , c1994-

出版年、頒布年、著作権表示年、及び製作年のいずれも表示がないか、不明のときは、推定出版年を補記して記録する。(NCR87R 1.4.3.2D)

PUB:東京 : 文部省 , [1951]-[1983]
PUB:東京 : 美術館連絡協議会 , [19--]-1991

6.2.4G (フィールドの繰り返し)

G1.1.2 (同一出版地の複数の出版者)

同一の出版地、頒布地に対して 2 以上の出版者が表示されている場合は、顕著なもの、最初のもの順で一つを選択して記録する。

または、2 番目以降の出版者もスペース、コロン、スペース(:)に続けて記録することができる。

PUB:東京 : 国立大学図書館協議会東京地区協議会 : 東京地区国立大学図書館ネットワーク研究会

6.2.4I (注意事項)

I1 (出版地、出版者などの変更)

刊行中での出版地、出版者などの追加、変更については、その名称と変更時点の巻次・年月次を NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.13)

このような出版事項の変更は、別書誌レコード作成の根拠とならない。(0.4.3B5)

I2 (並行して出版している出版者)

並行して別の出版者から刊行された資料に関する事項を記録してはならない。このような場合は別書誌を作成する。(0.4.3B5)

6.2.5 PHYS

6.2.5F〔データ記入及び記入例〕

F2 (特定資料種別表示と資料の数量)

F2.1 (刊行中の逐次刊行物)

刊行中のものは数量を記録せず、特定資料種別のみを記録する。印刷資料の場合は、特定資料種別の名称は記録せず、単位名称として「冊」を記録する。(NCR87R 13.5.1.2A)

PHYS:冊 ; 23cm

PHYS:冊 ; 17-19cm

F2.2 (完結した逐次刊行物)

完結した逐次刊行物については、特定資料種別と数量をアラビア数字で記録し、それに続けて、単位名称を記録する。印刷資料の場合は、特定資料種別の名称は記録せず、数量と「冊」のみを記録する。

修正しようとする図書館が刊行された全巻(号など)を所蔵していない場合でも、VLYR フィールドに初号・終号の記録があり、途中の巻号の状況に巻の後戻りや飛躍がないことが、記録の他の部分(登録された所蔵データなど)から、十分推測される際は、数量を記録することができる。(NACSIS 独自規定)

PHYS:11 冊 : 挿図 ; 21-23cm

PHYS:マイクロフィルムリール 8 巻 ; 10cm , 35mm

F3 (その他の形態的細目)

その他の形態的細目は、印刷資料の場合は、記録しない。印刷資料でない場合は、必要ならばこれを NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.14 , NCR87R 13.5.2)

6.2.6 VT

6.2.6E〔データ要素の情報源〕

VT フィールドのデータ要素の情報源は、当該出版物を含むあらゆるところから採用できる(NCR87R 13.0.3.2)

6.2.6F〔データ記入及び記入例〕

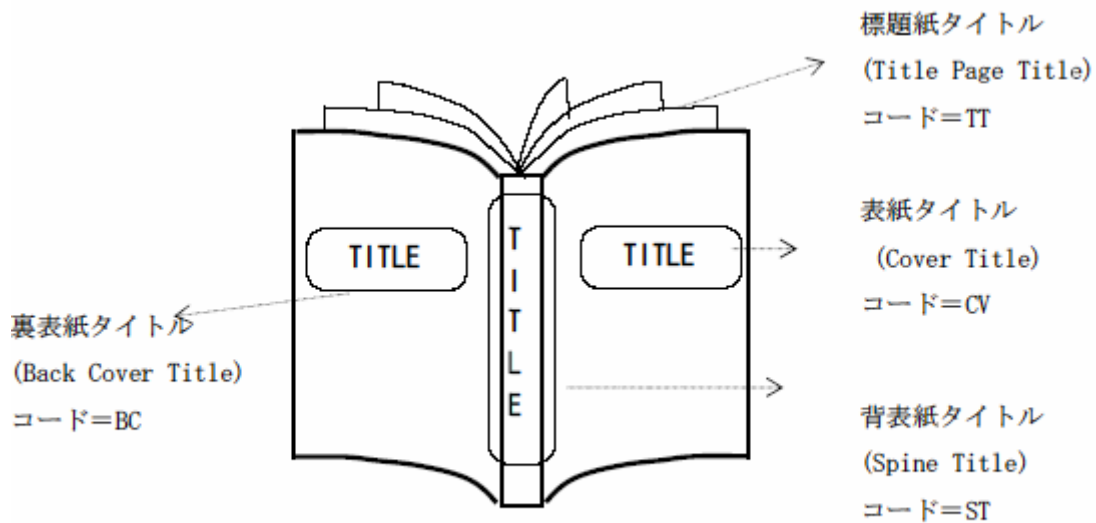
F1 (データ記入の原則)

F1.1 (初号もしくは所蔵最古号の場合)

「その他のタイトル」が初号もしくは(記述の基準とした)所蔵最古号に表示されている場合、タイトルの表示箇所に関わるタイトルの種類コードと共に VT フィールドに記録する。

TR:愛媛法学会雑誌 / 愛媛大学法学会 [編|||エヒメ ホウガッカイ ザッシ

VT:BC:Ehime law review (裏表紙タイトル)



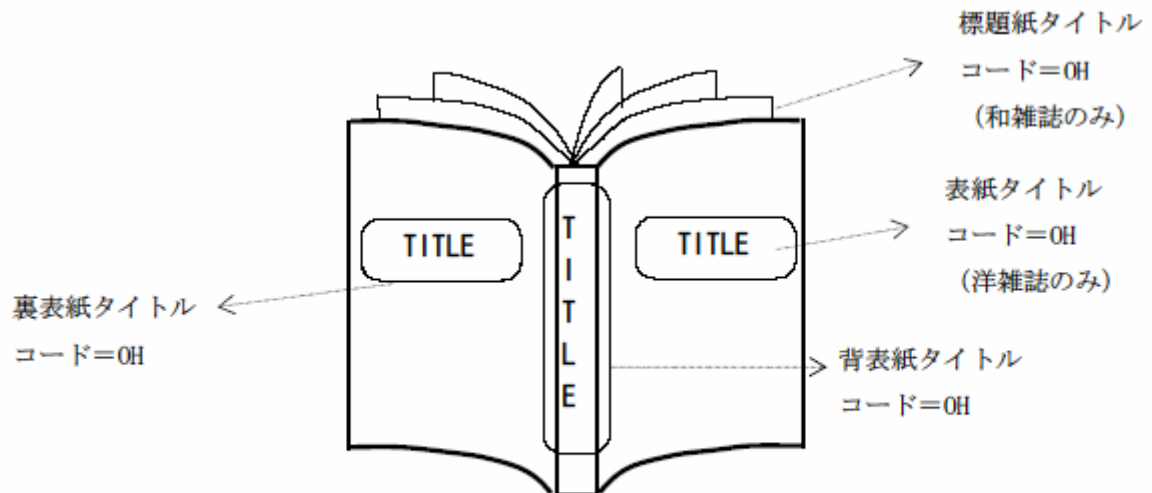
初号（または所蔵最古号）

F1.2(初号もしくは所蔵最古号以外の場合)

「その他のタイトル」が初号もしくは(記述の基準とした)所蔵最古号以降の号に表示されている場合、タイトルの表示箇所に関わらず、タイトルの種類コード(OH)と共に VT フィールドに記録する。タイトルの表示箇所に関するコード(AT, BC, CL, CP, CV, MT, RT, ST, TT)は使用しない。

さらに、そのタイトルの表示巻次・年月次・箇所についての説明を NOTE フィールドに記録する (6.2.7F3.10)

TR:コンクリートブロック / 日本コンクリートブロック協会 [編集]||コンクリートブロック
 VT:OH:月刊コンクリートブロック||ゲッカン コンクリート ブロック
 NOTE:奥付タイトル: 月刊コンクリートブロック (162号 (1997.3)-)



初号（所蔵最古号）以外の号

6.2.7 NOTE

6.2.7D(フィールド内容とデータ要素)

NOTE フィールドには、目録対象資料に関する注記をデータ要素として記録する。

	注 記 例
記述の根拠号	記述は3巻2号(1997)による 記述は平成2年度版による Description based on: Vol. 1, no. 3 (1992)
情報源	タイトルは題字欄による Title from cover
タイトル関連情報	タイトル関連情報の追加: シンポジウム論文集(1977-) タイトル関連情報の変更: 能率指導雑誌(1巻1号(1980.1))→通俗能率雑誌(1巻2号(1990.2-)) Other title information: quarterly newsletter, Dec. 1996- Other title information varies: journal of research, Vol. 4, no. 1 (1997)-
並列タイトル	並列タイトルの追加: Business accounting (1988-) 並列タイトルの変更: The statistical report (1号(1967)-8号(1975)) →The statistical journal (9号(1976)-) Vols. for 1990/92- have parallel title: German press Parallel title varies: Statistical trends in transport, 1982-
責任表示	責任表示の変更: 日本電信電話公社(-13巻3号(1983.9))→日本電信電話株式会社(13巻4号(1989.12)-) 責任表示の追加: 宮城県漁業協会(昭和53年-) 編集: 宮武外骨 Prepared by: 1972 by Department. of Industry, Trade and Commerce; 1973-1979 by Special Project Division, Trade and Commerce Editor: 1985-1991, William Porter
出版に関する事項	出版地変更: 東京(-12号(1990))→国立(13号(1991)-) 出版者変更: 早稲田大学出版部(-5巻(昭21))→早稲田大学文学会((6巻(昭22)-)) 出版者追加: 日本関税協会(No. 132(昭62.4)-) 出版地は開催のたびに変更 刊行頻度変更: 隔月刊(-26巻)→月刊(27巻-) Vol. 3 (1982) published with Butterworths, London Vol. 5 (1988)- published: Boston Frequency varies: -v. 3, no. 2 (1986), quarterly; v. 4, no. 1 (1987)-, monthly

コーディングマニュアル 第17章 雑誌所蔵レコード 抜粋

17.2.1 HLYR

17.2.1B [記述文法]



17.2.1D [データ記入及び記入例]

D1 所蔵する目録対象資料の号のうち、年次が最も古い号と最も新しい号を選択し、それぞれの号に対応する年次（所蔵開始年次と所蔵終了年次）をハイフンで結んで記入する。

VLJR:1 号 (1971)-13 号 (1991)
HLYR:1971-1982
HLV:1-9
(1号(1971)から9号(1982)まで所蔵している場合)

[例追記] 書誌レコードVLJRフィールドに「VLJR:1巻 (1965)-40巻 (2005)」の記載があり、1号(1965)から9号(1974)まで所蔵している場合

HLYR:1965-2005
HLV:1-9

1961年から1992年までを所蔵し、1967年の中途に欠号が存在している場合

○ HLYR: 1961-1992 <……………(以下○は正記入例)
× HLYR: 1961-1966, 1968-1992 <……………(以下×は誤記入例)

D2 所蔵開始年次と所蔵終了年次には、4桁の西暦紀年をアラビア数字を用いて記入する。西暦紀年以外の年次表示を持つものに対しては、西暦紀年に統一変換して記入する。

VLJR:1巻△ (康徳5)-
HLYR:1938-1940
HLV:1-3
(1巻(康徳5)から3巻(康徳7)を所蔵している場合。満洲暦康徳5年は西暦1938年に、康徳7年は1940年に該当する)

D3 所蔵する号の年次が同一年内に収まる場合においてもその同一西暦年を2つ記入し、ハイフンでつなぐ。

VLJR:1号 (1980)-
HLYR:1982-1982
HLV:3
(3号(1982)のみ所蔵している場合)

VLJR:No. 1 (1970)-
HLYR:1972-1972

HLV:13-18

(No. 13から18まで所蔵しているが、各号に対応する年次は全て1972年の場合)

[例追記]1995年のもののみ所蔵する場合

○HLYR: 1995-1995

× HLYR: 1995

D4 所蔵範囲内で巻次変更がある場合は、巻次変更の位置にセミコロン「;」を挿入し、当初の巻次表示方式をとっていた期間においての所蔵の年次の範囲と、新方式の巻次表示方式による期間においての所蔵の年次の範囲を記入する。

VLYR:1号(1985)-5号(1989);1990年度(1990)-

HLYR:1988-1989;1990-1990

HLV:4-5;1990

(巻次変更前の4号(1988)から5号(1989)、さらに変更後の1990年度(1990)を所蔵している場合)

[例追記] タイトル変遷誌には注意する。書誌レコードが

変遷前 VLYR:1(1990)-10(2000)

変遷後 VLYR:11(2001)-15(2005)の場合

○変遷前 HLV:1-10

変遷後 HLV:11-15

×変遷前 HLV:1-13 ← 変遷前誌一括して登録しないよう注意する。

D5 巻次変更のセミコロンの位置は、当該書誌のVLYRフィールドでの位置と対応させる。ただし、所蔵範囲外での巻次変更の事実については記入しない。

D6 目録対象資料上での、採用しようとする年次表示が複数の年にまたがる場合は、年次の幅が最も広くなるように、所蔵開始年次としては最も古い年を、所蔵終了年次としては最も新しい年を採用する。

VLYR:1号(1981/1982)-

HLYR:1981-1986

HLV:1,3

(1号(1981/1982)と3号(1985/1986)を所蔵している場合)

[例追記]年次 1988/1989年から1990/1991年のものを所蔵する場合

○ HLYR: 1988-1991

× HLYR: 1988/1989-1990/1991

D7 実際にはまだ所蔵していないが、購入予定のある雑誌の所蔵巻次データとしてはアスタリスク(*)を記入する。

HLYR:*

HLV:*

<注意事項>

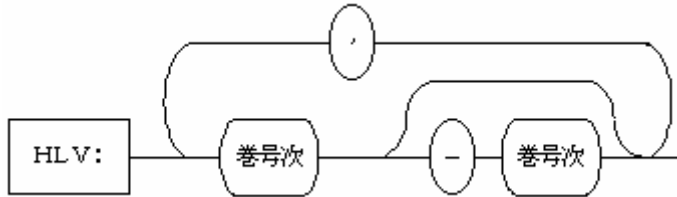
(1) アラビア数字とハイフン(-)、セミコロン(;)以外の記号・文字は使うことができない。

- (2) 出版年ではなく年次を記入する。年次と出版年とを混同しない。
- (3) 所蔵年次の範囲が、その資料の年次の範囲を超えないように注意する。

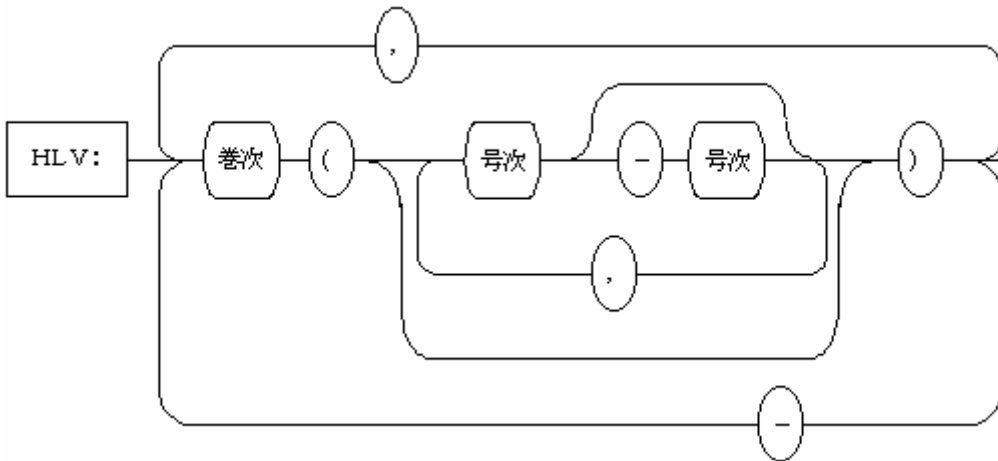
17.2.2 HLV

17.2.2B [記述文法]

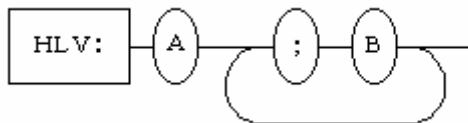
- 1) 巻（又は号）のみの場合



- 2) 不完全巻の表示 [この前後に①の記述文法が続くことがある。]



- 3) 巻次変更がある場合 [A、Bの部分の記述文法は、1] 又は2] の全体である]



17.2.2D [データ記入及び記入例]

D7 巻次の表現

D7.1 巻レベルと号レベル

D7.1.1 記入方式は、実際に目録対象資料上に表示されている表現にかかわらず、巻レベル・号レベルの2階層によるものとする。

D7.1.2 巻レベルの数字のあと、その巻レベルに従属する号レベルの数字を丸括弧(())に収めて記入する。ここで数字とはアラビア数字を指す。

VLYR:Vol. 1, no. 1 (1985.10)-

HLV:2(1)
(Vol. 2, no. 1のみ所蔵)

VLYR:1985. 6 (1985. 6)-
HLV:1988(7)
(1988. 7のみ所蔵)

VLYR:Vol. 1, no. 1, pt. 1 (1980.1)-
HLV:1(2)
(目録対象資料上の実際の表現が3階層である場合、対象資料は各号ごとPt. 1, 2, 3と分冊刊行されている。Pt. 1, 2, 3すべてを所蔵していない号は欠号扱いとなる。
Vol. 1, no. 2のみPt. 1, 2, 3すべて所蔵)

[追記例]
アラビア数字、修飾語（巻、通巻-号、Vol. No. など）は除去して記入する。
Vol. 3, No6
HLV:3(6)

D7. 1. 3 下に従属するもののない1階層の表現方式の場合は数字をそのまま巻レベルとして記入する。

VLYR:1 (1935. 6)-
HLV:8
(8のみ所蔵)
VLYR:1967 (1967)-
HLV:1967
(1967のみ所蔵)

D7. 1. 4 雑誌の個々の出版物理単位それぞれを識別・順序付けするための記号に対し、何が巻レベル・号レベルに相当するかを一般的に定義することは困難である。そこで、ここでは目録対象資料上の実際の表現に対して記入する上で、「巻レベル」（丸括弧に収めずに記入する）・「号レベル」（丸括弧に納めて記入する）として扱うものの具体例を示すことによって定義に代える。

目録対象資料上での実際の表現	記入上でのレベル	巻レベル	号レベル
1階層	号 ¹⁾ 通号 / 号 巻 年次	号 通号 ²⁾ 巻 年次 — — — —	
2階層	号 ¹⁾ - 分冊 巻 - 号 ¹⁾ 巻 - 号 / 通号 巻 - 月次	号 巻 巻 巻	分冊 号 号 月次

	卷一分冊 年次一月次 年次一号1)	卷 年次 年次	分冊 月次 号
3階層	卷一号 ¹⁾ 一分冊	卷	号 ³⁾

- 1) 表示上あるいは実質上、通号である場合を含む。
- 2) 通号が変遷前誌から引き継いだものであり、号のほうがその逐次刊行物固有の巻次である場合は、号を採用する。
- 3) 号レベル以下のものが全部揃っていない場合、その号レベルは欠号扱いとする

D7.2 数字以外のデータ

D7.2.1 それ自体には数値的な意味を持たない字句・単位(「巻」、「号」、「年」など)は削除し、数字のみの表現にする。

VLYR:1990年3月号 (1990.3)-

HLV:1991(7)

(1991年7月号のみ所蔵)

VLYR:2巻3号 (昭45.3)-

HLV:4(5)

(4巻5号のみ所蔵)

D7.2.2 元号を含むものは、元号を削除する。

VLYR:昭和41年度 (昭41)-

HLV:43

(昭和43年度のみ所蔵)

D7.2.3 アポストロフィを使用するなどして短縮された西暦紀年は4桁に補正する。

VLYR:'90 ('90)-

HLV:1990

('90のみ所蔵. 西暦紀年を4桁に補正して記入する)

D7.2.4 巻次の表現方式として、アラビア数字以外の表記によるものは、アラビア数字に変換する。また、数値以外の表記による巻次を示す表現であっても、刊行順に従って数字表現に変換する。

VLYR:Jan. 1987 (Jan. 1987)-

HLV:1987(1) (1987 Janのみ所蔵)

VLYR:1巻春号 (1991.4)-

HLV:1(3) (1巻には春・夏・秋・冬各号が存在し、その内秋号のみ所蔵)

HLV:2()

[例追記]

一卷二号 HLV: 1(2)

Vol. 3, no. 6 HLV: 3(6)

平成元年師走号 HLV: 1(12) ※ 月刊の場合

1990 March HLV: 1990(3) ※ 月刊の場合

昭和54 年秋号 HLV: 54

※ 同一年が「春」ではじまる季刊の場合

D7.2.5 部編表示に対応し、その部編内での各巻号の識別には関与しない記号等は削除する。

VLYR:Vol. 1A, no. 1 (1990)-

HLV:1(1)

(Aは当該書誌の部編表示「Section A」に対応する。Aは削除。部編表示が異なる資料は別書誌とする)

D7.2.6 雑誌の初号に「創刊号」あるいはそれに類似の表示しかない場合、これを数字表現に変換するにあたっては、「創刊号」が当該雑誌の巻次表示体系の中で何号に相当するかを、その後の巻次表示から判断する。「創刊号」しか所蔵していない場合は、暫定的に「1」として記入する。

VLYR:創刊 [1巻1] 号-

HLV:1-3

(1巻より3巻まで完全に所蔵)

D7.2.7 「創刊号」あるいは1号等に先んじて「創刊準備号」若しくはそれに類似した表現のものが存在する場合は、これを書誌的初号とみなし、記入にあたっては巻レベル数値として「0」を採用する。

VLYR:創刊準備 [0] 号-

HLV:0-4

(「創刊号」に先んじ、「創刊準備号」が1冊のみ刊行され、これより4号まで完全に所蔵している場合)

VLYR:創刊準備 [0巻1] 号-

HLV:0(1-2)

(「創刊号」に先んじ、複数の号が刊行され、書誌的初号に相当する号及び第2番目に刊行されたもののみ所蔵している場合)

創刊号や、1号の前の創刊準備号、あるいはそれに類似した表現のものが存在する場合は、これを書誌的初号とみなして記入する。

[例追記]

創刊号 HVL: 1 *次号が2巻または2号の場合

創刊準備号 HLV: 0 *次号が1巻または2号の場合

D8 継続所蔵の表現

D8.1 欠号の有無

D8.1.1 巻レベルでの欠号(=非所蔵巻)の存在は、その数字を記入せず、コンマ(,)で区切ることで表現する。

VLYR:1号 (1991)-

HLV:1,3

(1号,3号を所蔵し、2号は所蔵していない)

D8. 1. 2 号レベルの欠号が1冊でも存在する巻(=不完全巻)は、巻レベルの数字の他に、その号レベルを次の2通りのうち、いずれかの方法で記入する。

(1) 丸括弧内に実際に所蔵する号レベルの数字を列記する

(2) 号レベルの数字を記入せずに丸括弧のみ添える

いずれの方法をとるかは選択可能であるが、一度採択した方法は当該所蔵レコード内で一貫して使用し、原則として双方の方法を混用してはならない。

VLYR:1巻1号 (1987)-

HLV:2(2, 4), 4(3)

(2巻2号、2巻4号、4巻3号を所蔵する場合)

VLYR:1巻1号 (1987)-

HLV:2(), 4()

(2巻2号、2巻4号、4巻3号を所蔵する場合)

D8. 1. 3 同一巻レベルに属する号レベルは、同一の丸括弧内に収めて記入する。

D8. 1. 4 号レベル欠号の全くない巻(=完全巻)は、丸括弧及び号レベルの記入は行わず、巻レベルの数字のみを記入する。

D8. 2 継続表示

D8. 2. 1 号レベルにおいて、継続して所蔵している区間はその先頭の号レベル表示と末尾の号レベル表示をハイフンで結合して表す。継続が途切れる箇所はコンマで区切る。

VLYR:1巻1号 (1987)-

HLV:1(1-9, 11-12)

(1巻の1号から9号、11号と12号を継続して所蔵し、10号が欠号である場合)

D8. 2. 2 完全巻で継続して所蔵している区間は、継続区間の先頭の完全巻表示と末尾の完全巻表示をハイフンで結合して表す。不完全巻、非所蔵巻の出現により完全巻としての継続が途切れる箇所はコンマで区切る。

VLYR:1巻1号 (1987)-

HLV:1-8, 9(1-9, 11-12), 10-11

(1巻から8巻まで、及び10巻と11巻は完全巻で所蔵し、9巻が不完全巻である場合)

D8. 2. 3 不完全巻ばかりで継続して所蔵している区間は、丸括弧のみを添えた形の不完全巻表示で表現している場合に限り、継続区間の先頭の不完全巻表示と、末尾の不完全巻表示をハイフンで結合して表現することができる。完全巻あるいは非所蔵巻の出現により継続が途切れる箇所はコンマで区切る。

VLYR:1巻1号 (1987)-

HLV:1()-8(), 9, 10()

(1巻から8巻まで、及び10巻は不完全巻で所蔵しているが、9巻が完全巻である場合)

[例追記] 完全巻の表示(号レベルの欠号が1冊でもある巻)は、D8. 1. 2(1)(2)の方法で

記入するが混合してはならない。

- HLV:2(2,4),4(3-5) (1)の記載
- HLV:2(),4() (2)の方法の記載
- ×HLV:2(),4(3-5) (1)(2)のいずれかに統一する
(2巻2号、4号、および、4巻3号から5号を所蔵する場合)

(2)の方法に限り不完全巻のかぎりの連続所蔵をハイフン(-)で結んで、記入することができるが、(1)の方法で不完全巻同士をハイフンで結ぶことはできない。

- HLV:1()-8(),9,10
- × HLV:1(1)-8(4),9,10(7)

D8.2.4 以上において、ハイフンはその両端で使用された表示方式を一貫して保った形の継続所蔵を表現することをその目的としている。継続所蔵一般に使用されるものではない。

D9 複数の巻次表示方式がある場合

D9.1 同時に異なる表示形式による巻次が存在する場合は、VLYRフィールドで優先採用した表示方式で所蔵巻次を記入し、VLYRフィールドにイコール以下に記入した別方式やVLYRフィールドに記入しなかった方式による巻次表示方式では記入しない。

D9.2 以下に、表示方式に対する優先採用の基準を示す。VLYRフィールドに記入が存在しない場合は、本基準に従って複数の表示方式間の優先順位を判定する。

- (1) その雑誌固有の巻次表示は他の雑誌と共有する巻次表示より優先
- (2) 変遷後に付与された巻次表示は変遷前誌から引き継いだ巻次表示より優先
- (3) 2階層の巻次表示は1階層の巻次表示より優先

VLYR:1巻1号(1970.8)-=通号12号(1970.8)-
HLV:1(1-11)

(巻号による2階層の表示と通号による1階層の表示がある場合、2階層の表示を優先して記入する。)

D10 巻次変更の判定基準

以下に、所蔵データ記入にあたって巻次変更扱いとみなす基準を示す。

- (1) 従来の巻次表示方式よりも優先順位が上位の巻次表示方式が出現した場合

VLYR:1号(1985.7)-72号(1986.7);7巻1号(1986.8)-=73号(1986.8)-
HLV:1-72;7-9 <…(HLVはセミコロン(;))前後に空白をいれない)
(巻次変更前の1号から72号、変更後の7巻から9巻を完全巻として所蔵している場合)

(2) 複数存在した巻次表示方式のうち、当初採用した巻次表示方式が表示されなくなったために、順位がより下位であった巻次表示方式を繰り上げ採用する場合

VLYR:1980年1号(1980.8)-1985年12号(1985.7)=1号(1980.8)-72号
(1985.7);73号(1985.8)-
HLV:1983(2-12),1984-1985;73-80
(巻次変更前の1983年2号から1985年12号、変更後の73号から80号まで所蔵してい

る場合)

- (3) 巻次の数値が後退あるいは反復、若しくは極端に飛躍する場合(単なる誤植を除く)

VLYR:-昭和36年版(昭36); 昭和36年度(昭36)-

HLV:31-36;36-45

(巻次変更前の昭和31年版から36年版、変更後の昭和36年度から45年度まで所蔵している場合)

VLYR:-昭和64年版(昭64); 平成2年版(平2)-

HLV:58-64;2-3

(巻次変更前の昭和58年版から64年版、変更後の平成2年版から3年版まで所蔵している場合)

ただし、次のような場合には巻次変更とみなさない。

- (1) 巻次の呼称や、巻次体系の階層が変化するが、巻レベルの数値が一貫している場合

VLYR:Vol. 1 (1955)-no. 20 (1960)

HLV:1-20

(資料表記上は、Vol. 1-Vol. 12、No. 13-No. 20となっているが、数値が連続しているため巻次変更とはしない)

VLYR:1号(1988.2)-

HLV:2-4

(3号に続いて4巻1号が刊行されているが、巻レベル数値が連続しているため巻次変更とはしない)

VLYR:[1985], 1号(1985.1)-[1987], 12号(1987.12)

HLV:1985(1-11), 1986-1987

(1年をサイクルとして1号から12号まで刊行される資料に対して巻レベル数値として年次を補い、号の数値が振り出しに戻って反復する度に巻次変更とはしない)

- (2) 他の雑誌と巻次体系を共有しているために、その雑誌としての巻次が不連続になる場合

VLYR:3号(1988)-

HLV:3-9

(実際には当該タイトルの下で刊行されているのは3, 6, 9号のみであるが不連続となる度に巻次変更あるいは欠号扱いにはせず、継続所蔵として表現する)

- (3) 単なる誤植のために巻次の数値が後退・反復・飛躍する場合

- (4) タイトルに雑誌全体に関わる番号付けが変更・追加された場合(タイトル変遷とみなして別書誌レコードを作成する)

[追記例]

なお、巻次変更と判定した場合、対応する書誌レコードのVLYRフィールドにその記述が存在していないときには、必要な記述を行う。

17.2.2E 《注意事項》

E1 アラビア数字、ハイフン（-）、コンマ（,）、丸括弧（()）及びアスタリスク（*）以外のデータは記入できない。シャープ（#）は不使用とする。

E2 巻レベルと号レベルの間をコンマ等丸括弧以外の記号で区切ってはならない。

E3 表示上の「号」と記入上の「号レベル」を混同してはならない。1階層のみの表示の場合は、たとえ「号」という名称であっても、「巻レベル」として丸括弧に収めずに記入する。

E4 記入に際して、スペースは一切挿入してはならない。

E5 所蔵巻次の範囲が、当該書誌の巻次の範囲を越えてはならない（実際は変遷前誌、変遷後誌に付けるべき所蔵データである可能性がある）。

E6 継続所蔵を表現する際に、ハイフンで結合することが可能なのは、次の3つの場合に限る。種類の異なる表示を相互に結合することはできない。

(1) 号レベル表示同士

(2) 完全巻表示同士

(3) 丸括弧のみを添えた形の不完全巻表示同士

また、号レベルの数字を丸括弧に収めて記入した不完全表示はいかなる表示とも（同種の表示とも）結合できない。

E7 数値として隣接した同種の表示方式による所蔵データの記入にあたっては、その結合にはコンマではなくハイフンを使用する。

E8 刊行頻度が隔月、隔年等であることにより、巻次数値が連続しない場合であっても、継続所蔵区間の先頭と末尾をハイフンで結合して表す。

FREQ:g

VLJR:1960 (1960)-

HLV:1960-1962, 1966, 1970

(隔年刊行の資料であり、1961は刊行されていない)

E9 他の雑誌と巻次を共有しているために、その雑誌の巻次としては不連続になる場合や、誤植のために巻次が飛躍したりする場合は、巻次が連続していなくとも、その雑誌としての巻号が揃っている区間は継続所蔵扱いとすることができる。その雑誌に対しては存在しない巻次について欠号扱いして、所蔵巻次を逐一列記する必要はない。

この際、NOTEフィールドに巻次のとび方や誤植の存在について注記を施しておくことが望ましい。

E10 合併号は、物理的には1冊であっても所蔵巻次の記入の際には別個の号が継続したものとみなす。

VLJR:1/2/3号 (1980.1)-

HLV:1-3

(1号2号3号合併号を所蔵している場合.それぞれ別個の号を継続して所蔵していたのと同等とみなす)

E11 巻次変更が存在するが、変更直前直後の号を所蔵していない場合であっても、変更前の巻次と変更後の巻次の間にはセミコロンを記入する。

VLJR:1号 (1950)-5号 (1953) ; 4年1号 (1954)-

HLV:2;6(2)

(所蔵しているのは変更前は2号のみ、変更後は6年2号のみであるが、この場もセミコロんで区切って記入する)

E12 年月次の表示方式の変更は巻次変更とみなさない。ただし、巻次表示が存在しないために巻次として採用した場合はその限りではない。

E13 巻次変更の判定において、巻次の数値が反復する場合は通常巻次変更とみなすが、1階層のみの表示方式で、その数値が組となって継続的に反復する際には数値が振出しに戻るたびに巻次変更扱いにするのではなく、適宜の巻レベル数値（年次等）を補い、巻次が一貫して連続するものになるよう調整の上記入する。

E14 タイトル変遷あるいは休・廃刊によって、当該書誌が巻次の途中の号で始まったり、終わったりする場合は、各雑誌についての該当巻の構成号をすべて所蔵しているならば完全巻として扱う。

VLYR:1巻1号(1983.1)-6巻2号(1988.2)

HLV:1-6

VLYR:6巻3号(1988.3)-

HLV:6-8

(変遷前誌は6巻2号で終了、後誌が6巻3号より開始。前誌における6巻は1号と2号を所蔵、後誌における6巻は3号以降すべての号を所蔵している。この場合は、それぞれを完全巻扱いとする)

VLYR:1巻1号(1948.1)-21巻10号(1968.10)

HLV:1-21

(通常各巻12号まで刊行されているが、最終21巻は10号で終了している。この場合、21巻1号から10号まですべて所蔵しているなら、21巻は完全巻扱いする)

電子ジャーナル管理データベースのデータベースモデルと入力仕様

はじめに

NACSIS-CAT は、「全国の学術情報資源を集約したい」との考えで発展してきた総合目録データベースで、電子媒体である電子ジャーナルにおいても「どのタイトルをどの参加組織で閲覧可能か？」は何らかの形で確認できることが望ましいと考えられてきた。しかし、電子ジャーナル担当者からは、NACSIS-CAT の電子ジャーナルの扱いの規則が実際の業務に適合しない、という意見が多数寄せられていることから、今回の研修では、理想的なデータベースモデルの作成を試みる。

電子ジャーナルは NACSIS-CAT での基本的な書誌作成単位である物理実体がなく、従来の情報源からの書誌作成という考え方では限界があるように思われた。電子媒体、とりわけインターネットの世界では様々な状況の変化が桁違いに速く、近年は電子ジャーナルを様々なパッケージとして購入するという傾向があることから、従来の物理単位という発想を変え、「パッケージ中のタイトルを年間契約でアクセス権を購入するもの」という観点からデータベースモデルを作成し考察した。

考察の進め方として、第一に「電子ジャーナル担当者が求める理想のデータベースモデル」の提示、次に「理想実現のための具体的なシステム内容」、続けて「現在ある NACSIS-CAT データベース資源で理想をどのように表現するか」、最後に「NACSIS-Webcat のデータ更新・移行の工夫」の4段階での考察として、極力具体的にモデルを考察・作成したつもりである。今回はデータベース実務研修内での限られた時間内、それも雑誌受入・目録担当者の4名のグループという限られた人員での検討となったため、様々な事例に対応できない部分も多数見受けられると思われるが、今後の電子媒体の取り扱いについて具体的で実用的なモデルを限られた条件の中で提案することにした。

電子ジャーナル担当者が求める理想のデータベースモデル

データベースモデルはインターネット世界の中に無数あり、常に現在進行であるので、理想を論ずるにも戸惑うような部分がある。しかし、「全国の学術情報資源を集約する」、もしくは「自分の求めている情報を早急に探せる」ものを作る、といった限られた目的を実現する場合には、ある程度具体的な手段を決定してから考察を進めるべきだ、と思われる。よって、目的と手段を明確にする作業から始めたい。

自分の目的とする情報を取得するには、まず適切なデータを作成してそれが「自分の求めている情報と一致する」ことで、初めて情報を手に入れる第一段階となる。現在の進化した検索システム・データベース検索では、検索システムの優劣よりも、むしろ内容の部分、データの中身の真価が問われるとあってよい。よって、データベースの項目内容が洗練されていない¹⁾と、全く役に立た

ないものを作ってしまった、という状態に陥る危険性は十分に考えられる。今後もコンピュータを利用してデータを検索するという作業は継続される、と決定づけられるので、項目は少なくとも情報を検索するという目的を確実に実現できる具体的モデルを考案した。

今回の考察では電子媒体全般の中の「電子ジャーナル」を中核として取り上げ、データベースモデルを考案した。電子ジャーナルは物理的実体がないことが前提であるが、基本的なモデルとしては次の状態を表現できるようにした。

ある年に、
あるパッケージで、
あるタイトルを、
ある接続先を利用して、
どの図書館が、
どれだけのモノを、(いつからいつまで) 提供されているか(アクセス権があるか)、

また、ホームページでのリンクとしては、パッケージのメインページから検索してタイトルページを表示、そこから各号の論文に到達するという基本モデルを元に、書誌階層としてパッケージのメインページからタイトルページへのリンクを親書誌・子書誌の関係で表現した。

パッケージのメインページ タイトルページ 各号論文

上記のイメージをデータベースモデルで表現するために、従来の「物理単位での目録作業」、
「雑誌なので初号を基準に継続を重視する」という発想を変え、「パッケージ中のタイトルを年間契約でアクセス権を購入するもの」という観点からデータベースモデルを作成した。

図書館閲覧担当者の理想としては「google のような www ページ検索エンジンと、NACSIS-Webcat の書誌詳細を検索できるツールの融合」で、google のように検索目的語の入力部分は1つになっていることが条件である。1つの検索キーワードでありとあらゆる情報を得ようとするわけであるが、NIIの現在運用中のシステムでは、GeNii がそれに相当する。ただし、GeNii は、データベースを横断検索する一ツールと位置づけられ、個別のデータベースの理想形とは考えられない。よって、電子媒体の「全国の学術情報資源を集約する」という目的からすると、横断検索だけでは不十分で、実際の個々のデータベース、横断検索される側の個別のデータベースがうまく機能していない状態では、十分活用できるとはいいがたい。次章で、具体的なデータベースモデルを提案する。

・理想実現のための具体的なシステム内容 - 年ファイルの存在意義 -

具体的なデータベースモデルとして、次の項目とリンク構造が必要である、との結論に至った。

目的として

- ・「全国の学術情報資源を集約する」ものであること。
- ・実務を担う図書館電子ジャーナル担当者に負担がかからないもの。

以上2点を同時に実現できるモデルを考案した。運用は次のとおり。

運用モデル

書誌データは電子ジャーナル出版社に協力してもらい、翌年の契約予定タイトルの書誌をNIIで一括登録する²⁾(8～9月頃)。ここでの登録は購入ベースのもので、パッケージ契約によるものが多くなると思われる。

書誌データの入力完了後、一括登録した全タイトルのリストを各参加組織館でNIIサーバーからダウンロードする、などの方法で配付する。

参加組織館では、電子ジャーナルのアクセス権を購入するタイトルに FANO などの図書館の識別コード、ILLが可能な場合はその図書館からアクセス可能な年次・巻次を記入してデータを作成する。電子ジャーナルの場合、遡及入力などで、契約期間内に閲覧可能年次・巻号が変更される場合があるので、年次・巻次は特定できない。よって入力必須事項としない。

参加組織館から、アクセス権保有データを一括で登録する、もしくはそのままNIIにデータを送りNIIが登録する。この作業は11月～12月中に行い、1月からの運用(4月からも可)に備える。

ライセンスフリーの電子ジャーナルも資源共有という意味合いから、書誌データのみを登録して、検索対象とする。

書誌データ、一括登録したアクセス権保有データのメンテナンスは基本的に所定のNIIホームページから行う。

検索は「Google」や「全国漢籍データベース」³⁾のように検索項目を入力する部分は1箇所にする。購入年を指定するためにもう一つ入力箇所を設け、利用可(現在(今年)利用できる電子ジャーナル、購入年(今年)のもの)と9999を抽出)を検索できるようにチェックボックスも設ける。

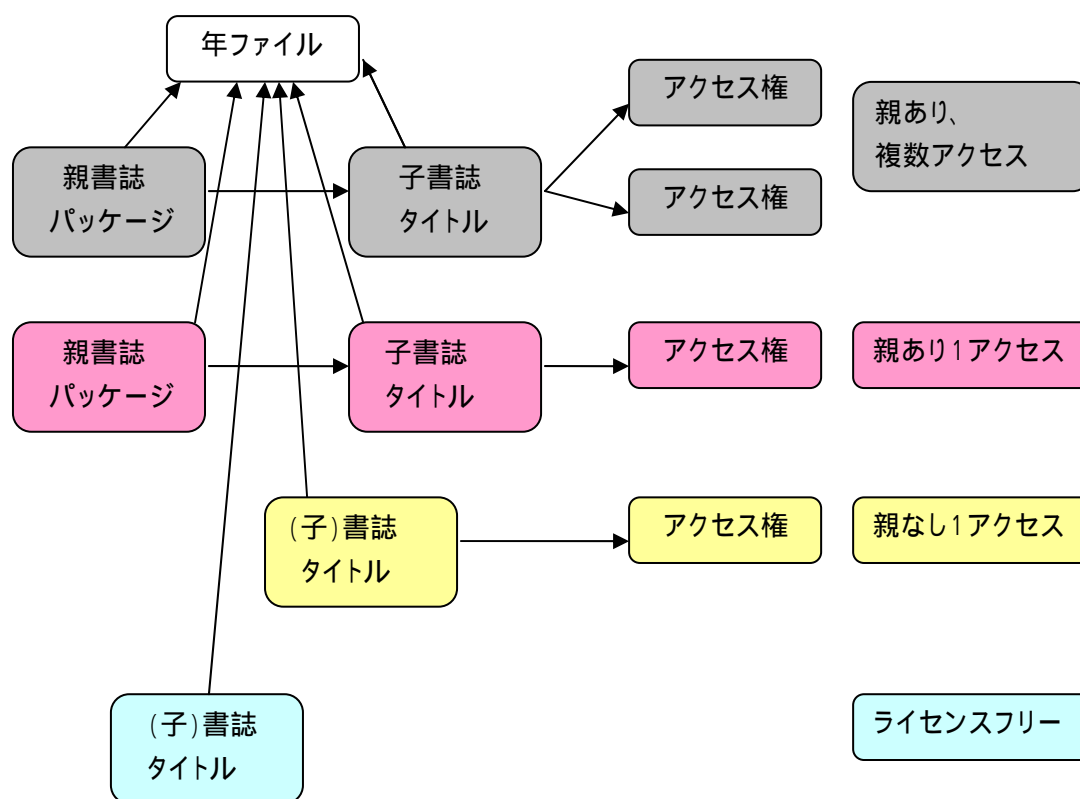
画面レイアウトモデル

検索項目 [_____]
利用可 [*] 契約年 [_____]

参加組織内でもデータが利用できるように、自機関の登録データのダウンロードは可能であることが望ましい。その場合のデータ形式は CAT-P 形式に加えて、CSV 形式でのデータダウンロードも可能とする。

参加組織館が行う基本的な手順は、ProQuest「シリアルズ・ソリューションズ」、EBSCO「A to Z」などの電子ジャーナルアクセス権管理ソフトにデータを登録するのと同じ手順になるかと思われるので、登録の手間はかからない。また、書誌は毎年差し替えるので、現在の NACIS-CAT 雑誌DBのように、最新情報に書誌を修正することはほとんどないと考えられる。加えて書誌内容を簡潔にすることで、書誌データの一括登録も簡単に行える。このパターンは今までにない手順であるので、実現するには、様々な状況に対応すべくルール作りが必要かと思われるが、ファイル構造を簡略化し、項目も最小限に抑えてあることから、小回りの効くデータベースモデルに仕上がったと考えている。ファイル構造は項目名を理解しやすいように NACIS-CAT データベースと同じ内容のデータを入力するフィールドは、同一項目名とした。

リンク構成図 書誌ファイルはすべて年ファイルとリンクする。



参加組織ファイルはアクセス権にそれぞれリンクされる。

検索表示(詳細)例

<[AA00000111](#)>

契約年: 2005

TR: Journal of thermal stresses (1521074X)

PUB: Taylor and Francis

PTBL: Taylor and Francis 2005<[AA00000004](#)>

URL: <http://journalonline.tandf.co.uk/openurl.asp?genre=journal&eissn=1521-074X>

URL: <http://www.ingentaconnect.com/content/tandf/uths>

所蔵図書館 3

[大](#) [図](#)

[大](#)

[大](#) 電子 130-159<1998-2005> <http://www.ingentaconnect.com/content/tandf/uths/111>

以上が理想の形であり、この形であると、GeNii などからの横断検索も可能と思われる。

ファイル構造

年ファイル

年ファイルは「ある年」を表現する。事実上、契約年を表現する。すべての書誌ファイルがリンクする。

YID=*****

YEAR=2005

年ファイルは購入年を表現する。書誌データ内に入力してもよいが、リンクすることにより、購入年での検索時に高速化が期待できる。また、購入年次を限定するためにはリンクさせておくことが望ましい。項目中のゴジック体はリンク項目としても利用する。ライセンスフリーのものは、「いつまでも利用できる」という意味で、「9999」を入力する。

参加組織ファイル

参加組織ファイルは所属する図書館の名称などを表示する。アクセス権ファイルにリンクする。

FID=+++++

FANO=FA000000

NAME= 大学図書館

書誌ファイル

親書誌

親書誌は基本的に「あるパッケージ」を表現する。

BID=BA00000002

YEAR=2005

GMD=w

SMD=r

TTLL=eng

TXTL=eng

ISSN=

XISSN=

TR=Springer Link

PUB=
IDENT=<http://link.springer.de/link/service/journals/>
NOTE=Access: via WWW
PTBL=

子書誌

子書誌は基本的にパッケージ内のタイトル、「あるタイトルを」「ある接続先を利用して」を表現する。「ある接続先」は IDENT に入力し、複数の接続先に対応するとともに所蔵館ごとの複数の接続も表現する。また、パッケージではなく雑誌タイトル単体で購入する場合は、子書誌のみで書誌情報を構成する。

BID=BA00000001
GMD=w
SMD=r
YEAR=2005
TTLL=eng
TXTL=eng
ISSN=14240661
XISSN=14240660 ……繰返可
TR=Annales Henri Poincare
PUB=Basel, Switzerland : Birkhauser ……繰返可
IDENT=<http://link.springer.de/link/service/journals/00023/index.htm> ……繰返可
NOTE=Access: via WWW ……繰返可
PTBL=Springer Link<BA00000002> ……繰返可

以上のようなレイアウトで、書誌情報を表現する。ライセンスフリーの電子ジャーナルは(無料のもの) アクセス権が発生しないので、書誌のみ登録し、「このDBで検索し、書誌情報を確認、URLがわかる」、という具合になる。親書誌と子書誌の関係で書誌は NACSIS-CAT 図書DBのように2階層として表現し、親書誌にはパッケージの代表URLを記録する。有料無料の区分は YEAR が「9999」になっているものを基本的に無料として解釈する。逆に YEAR が「9999」になっているものは、年度更新を行わないものと解釈されるので、アクセス先などの変更時には手作業でのデータ修正が考えられる。

アクセス権保有ファイル

アクセス権保有ファイルは「ある接続先を利用して」、「どの図書館が」、「どれだけのモノを(いつからいつまで)」提供されているか表現する。年次・巻号は契約途中からアクセスできるタイトルが変更される場合もあり、加えてILLの利用不可の場合も多いと考えられるので、年次・巻号は入力必須としない。

ID=CD00000001
BID=BA00000001
IDENT=<http://link.springer.de/link/service/journals/00023/index.htm>
LOC=図
FANO=FA000000
RGTN=11111 ……空値可、繰返可
HLYR=2000-2005 ……空値可、繰返可
HLV=45-50 ……空値可、繰返可
CLN=請求記号 ……空値可、繰返可
CPYNT=ILL可 ……空値可、繰返可
LDF=図書館定義
LTR=ローカルトレーシング

アクセス権保有ファイルは基本的に書誌ファイルとは BID と IDENT でリンクすることになるが、個々の参加組織の接続先の URL が、書誌の URL とおなじものでないといけない、という仕様にせず複数持つ仕様とし、各館で異なるものでも登録できるようにしたい。その場合は LDF フィールドなどを利用する。しかし、大多数は書誌の URL で問題ないと思われるので、IDENT でもリンクが可能と判断した。また、複数の接続先で同じものを利用できる場合は、複数のアクセス可能な URL を登録できるようにファイル構成を工夫した。

図書館でアクセスできるタイトルに、ILL が可能な場合はその図書館からアクセス可能な年次・巻次を記入してデータを作成する。電子ジャーナルの場合、遡及入力などで、契約期間内にアクセス可能年次・巻号が変更される場合があるので、年次・巻次は特定できない。

リンクモデルとしては、アクセス権保有ファイルに URL を書誌とのリンク項目として利用するところが特長であるが、出版社の都合で急に接続先が変わるといった状況も考えられる。アクセス先は適切に接続しているかを自動的に点検する仕組みを作り、変更があったものは書誌ファイルを自動的に修正する。また、書誌の IDENT を修正し、データを確定した時点で、「その書誌に所属するアクセス権所有ファイルの IDENT も同時に修正後のものに更新する」、というバッチプログラムが走るように設計する。この処理で、リンク不完全なアクセス権保有データがなくなると思われる。

年更新時(11月から12月)には各図書館からデータを提出する場合、次の項目の Excel シート(CSVファイル)に入力する。項目例を次に挙げる。

BID=BA00000001
YEAR=2005
GMD=w
SMD=r

TTL=eng
TXTL=eng
ISSN=14240661
XISSN=14240660
TR=Annales Henri Poincare
PUB=Basel, Switzerland : Birkhauser
IDENT=<http://link.springer.de/link/service/journals/00023/index.htm>
PTBL=Springer Link<BA00000002>
LOC=
FANO=
RGTN=
HLYR=
HLV=
CLN=
CPYNT=
LDF=
LTR=

書式の関係で縦に記述したが、この項目順で横展開のデータとなっており、ゴシック体の部分に参加組織館はデータを入力することになる。ちなみに、参加組織内で閲覧可能なタイトルに FANO を入力すると、このタイトルに対して所定の 1 年間は「アクセス権あり」というデータになる。Excel のデータなので、購入し(購入予定で)、アクセス可能なタイトルデータのみ自館の FANO をコピーして保存する。最後にファイルを NII に提出という手順である。

・ 現在ある NACSIS-CAT のデータベース資源で理想をどのように表現するか
- NACSIS-CAT 図書 DB での表現 -

理想モデルは一つの理想であるが、現実的に、現在の NACSIS-CAT のデータベースレイアウトや、NACSIS-Webcat データベースで、できる限り理想に近づけるには、発想の転換が不可欠であるかと思われる。現在のシステムが、「どのような目的で作成されたか」を考えるよりも、発想が異なっても、「今ある DB が何に使えるのか」、を突き詰めることにした。提案としては次のようになる。

電子ジャーナルの書誌情報は、原則的に「最新号を基準として書誌を作成する」⁴⁾という概念が浸透し、定着しつつあると思われる。最新号を基準にすることは、現在の NACSIS-CAT 雑誌 DB の原則である「初号主義」における「初号からの継続性」を優先するものとは異なり、電子ジャーナルの「最新号優先」の考え方にそぐわない。また、「パッケージ中のタイトルを年間契約でアクセス権を購入するもの」という発想では、NACSIS-CAT 雑誌 DB に書誌階層、親書誌・子書誌という概念がないことから、パッケージというものを表現できないと考えた。よって、NACSIS-CAT 雑誌 DB に電子ジ

ジャーナル書誌・所蔵データを強引にデータ登録して「全国の学術情報資源を集約する」ことは一度あきらめ、違う手段を考えることになった。

次の考え方としては、統計書などの「年鑑」「白書」などの年刊発行の継続図書というイメージでデータを作成できないか、という考察に入った。この場合、「パッケージ中のタイトルを年間契約でアクセス権を購入するもの」の書誌階層のモデルはうまくいくが、書誌を新たに毎年作り直さなければならない、といった手間が発生する。しかし、「最新号を基準とする」という基準からいうと、毎年書誌を作成することは致し方ないのではないか？むしろ「年間契約中の最新の書誌」を毎年作らないと、最新の情報を維持できないのではないか？とも考えられた。そこで、NACSIS-CAT 図書DBでデータベースモデルの表現を試みた。加えて、NACSIS-CAT システムのデータを NACSIS-Webcat のデータとして利用していることを考えると、NACSIS-CAT 図書DBで表現できるという長所は大きいと思われる。

また、前章 . . . で説明した理想のデータベースモデルは、具体的には年ファイルでデータをコントロールするように設計したが、NACSIS-CAT の現状ファイル構成ではそのようなファイル、リンク項目がないので、親書誌と子書誌にある YEAR 項目の年を流用してデータを作成する。また、親書誌は ED の版項目に年を入力し、前年とは版が異なるという状態を表現した。

書誌ファイル

親書誌

親書誌は「あるパッケージ」と「ある年」を表現する。

ID=BA00000001

YEAR=2005

GMD=w

SMD=r

VOL=<http://link.springer.de/link/service/journals/> (IDENT)

TR=Springer Link

ED=2005

PUB=

PTBL=

子書誌

子書誌はパッケージ内のタイトル、「あるタイトルを」「ある接続先を利用して」を表現する。「ある接続先」は図書書誌の VOL 部分を利用して入力し、複数の接続先に対応するとともに、アクセス権保有館ごとの複数の接続も表現する。パッケージではなく、単体で購入する場合は子書誌のみで書誌情報を構成する。

ID=BA00000002
YEAR=2005
GMD=w
SMD=r
VOL=<http://link.springer.de/link/service/journals/00023/index.htm> (IDENT)・・・繰返可
ISSN=14240661
TR=Annales Henri Poincare
PUB=Basel, Switzerland : Birkhauser
NOTE=Access: via WWW ;
PTBL=Springer Link <BA00000001>

ID: BA00000003
GMD=w
SMD=r
YEAR: 2005
VOL=<http://link.springer.de/link/service/journals/00134/index.htm> (IDENT)・・・繰返可
VOL=<http://link.springer.de/link/service/journals/00135/index.htm> (IDENT)・・・繰返可
ISSN=14321238
TR=Intensive care medicine
PUB=Berlin : Springer
VT=VT: Intensive care med ; Intensive care medicine
NOTE=Access: via WWW
NOTE=Title from table of contents
NOTE=Organ of: European Society of Intensive Care Medicine
NOTE=ISSN for printed issues: 03424642
PTBL=Springer Link <BA00000001>

所蔵ファイル

アクセス権保有データは、NACSIS-CAT 図書DB、所蔵ファイル上で VOL(IDENT)の繰り返しで表現し、複数の接続先を表すとともに、CLN(請求記号)にアクセス可能な年次・巻号を入力し、「ある接続先を利用して」、「どの図書館が」、「どれだけのモノを(いつからいつまで)」提供されているか、を表現する。年次・巻号は契約途中からアクセスできるタイトルが変更される場合もあり、加えてILLの利用不可の場合も考えられるので、年次・巻号は入力必須としない。

ID=CC0000000001
BID=BA000000003
FANO=FA0000001

LIBABL=NACISIS 大

LOC=図

VOL=<http://link.springer.de/link/service/journals/00134/index.htm> (IDENT) 繰返可

RGTN=0000001空値可、繰返可

CLN=45-50<2000-2005>空値可、繰返可

CPYNT=ILL可空値可、繰返可

VOL=<http://link.springer.de/link/service/journals/00135/index.htm> (IDENT) 繰返可

RGTN=0000002空値可、繰返可

CLN=45-50<2000-2005>空値可、繰返可

CPYNT=空値可、繰返可

この場合、問題になってくるのは、VOL (IDENT) の繰返し部分で、所蔵を一括で登録したとして、接続先が出版者の都合で変更になった場合、所蔵巻の VOL を変更して所蔵を修正しなければならない、といった問題点がある。また、大学ごとに接続先が異なるといった状況も考えられる。しかし、NACISIS-CAT 図書DBのVOL 繰返しの部分は、厳密に書誌のVOL と同一のものでなくても繰返せるという特徴があるので、書誌の代表接続先と異なる場合でも登録できると考えた。また、NACISIS-CAT 図書DBのVOL 項目は256文字の入力が可能なので、ほとんどのURLが記述可能であろうと思われる。

. NACISIS-Webcat のデータ更新・移行の工夫

NACISIS-Webcat へのデータ移行は、木曜日午後6時から金曜午前8時の間に、NACISIS-CAT 全データのバックアップと同時にデータを抽出し、抽出後から月曜日朝までに NACISIS-CAT データから NACISIS-Webcat 用のデータを作成してデータ更新を行っている。図書のDBにデータを入力するとなると問題ないかと思われるが、. . . の NACISIS-CAT のデータベースとは異なるレイアウトの新たなデータベースを構築した場合でも、移行仕様を工夫することで、NACISIS-Webcat へのデータ移行が可能ではないかとも考えた。

また、NACISIS-WebcatはNACISIS-CATデータベースと内容は同じでも物理的に異なるデータベースなので、「全国の学術情報資源を集約する」という方針を延長すると、例えば「全国漢籍データベース」などのデータをNACISIS-Webcatで検索できるようにすることも、データコンバート・更新仕様を考案してデータベースをうまく活用すれば実現できるのでは、と推測した。詳細のデータ更新仕様を見ていないのでわからないが、基本的なレイアウトは変更されていないと思われるので、确实でないにしろ、ある程度の範囲では可能であると思われる。実際、京都大学人文科学研究所 附属 漢字情報研究センターで毎年行われる「漢籍担当職員講習会 初級・中級」⁵⁾では、「全国漢籍データベースの内容がNACISIS-Webcatで検索できるようにはならないのでしょうか？」という質問が必ずあることから、全国の図書館に関わる者としてNACISIS-Webcatが「全国の学術情報資源を集約している」と認めているからこそ、この質問、であろうかと思っている。

また、考えを変えると、NACSIS-Webcat 内で他のデータベースとの横断検索を行うことも解決策の一つであると考えられる。具体的には検索項目から NACSIS-Webcat の本体と、先ほど提案した「電子ジャーナルアクセス権保有データベース(仮称)」、「全国漢籍データベース」などを横断検索する、などの手法も今後の検討課題であると考えられる。NIIからすると、「横断検索は GeNii があるじゃないか」ということになるが、個々のデータベースをまず見直すことが、地味な作業であるが「全国の学術情報資源を集約する」という目的を実現できる唯一の方法ではなからうか。

まとめ

電子ジャーナルのILLでの利用は、「根本的にできるのか?」、「著作権上許されるのか?」、「ホントに大丈夫なのか?」という問題点が冊子体ではない電子資料という理由が常につきまどう。電子ジャーナルの概念を表現すると、適合する用語が見当たらなかったが、通勤時に利用する「定期券」のような感覚か?と思われた。「定期券」は人に貸すことはできないので、ILLのような相互利用はできない、となるのだろうか? また、論文単位でバラ売りしているというジャーナルも見受けられることから、ILLよりはバラの論文を購入するほうが有効なのではという意見も存在する。加えて、著作権などの法律整備の理解も必要だが、現在のところグレーな部分であることは間違いない。NACSIS-CAT の参加組織の中には、「ILLに提供できるものを NACSIS-CAT に登録する(ILL利用できないものは登録しない)」という考え方の参加組織もあるようで、「全国の学術情報資源を集約したい」というNIIの基本となる考え方とは異なってきている部分も見受けられる。電子媒体については冊子体の資料とは異なり、変化のスピードが極端に早く、図書館としても対処できないでいる、のが現実ではなからうか。

これまで、「全国の学術情報資源を集約する」という目的を実現する手段としていくつかの方法を考案した。データベースモデルもさることながら、実際の業務担当者の理想を具体的に形にしてみたのであるが、今後の NACSIS-CAT の展開に協力できることになれば幸いである。

注および文献

- 1) システム設計速習読本 : 南條優のSEパワーアップ / 南條優著. - 東京 : 学習研究社, 1992.7. 154p ; 26cm P80-88 業務を効率化するという観点からコンピュータを使うことについて適切に説明がなされている。
- 2) NACSIS-CAT/ILL ニュースレター / 国立情報学研究所 [編] 14号 (2004.6.28) p16 「総合目録データベースにおける電子ジャーナルの取扱いについて」 NACSIS でも書誌・所蔵データの一括更新は検討されている。

- 3) 「全国漢籍データベース」(<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki/>) 全国漢籍データベース協議会 「漢籍」については伝統的な四部分類を基礎とする別個のデータベースが必要とされている。(全国漢籍データベース協議会HP抜粋)
<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kansekiyogikai/>
- 4) NACSIS-CAT 目録システムコーディングマニュアル 「6.0.4 電子ジャーナルの書誌記述」
「17.0.1 電子ジャーナルの所蔵記述」
- 5) 「漢籍担当職員講習会 初級・中級」京都大学人文科学研究所 附属 漢字情報研究センター
初級コースでは宮澤彰教授が「NII 総合目録データベースと全国漢籍データベース」という演題で講師をされている。

このグループ演習では、電子ジャーナルの実情・希望・理想を導入経験者にリアルに語っていただき、別の視点から、電子ジャーナルを導入していない大学図書館担当者がデータベースモデルを考案、レポートを作成、再度運用手順モデルなどを確認いただきました。単にモデルというだけで、具体例を添付することが難しかったが、ある程度具体的に、レポートの形にまとめることができたと思います。発表もこのレポートを基準に行えたのは幸運でした。これもグループ演習の私以外の3人の適切なアドバイスと、お世話いただいた研修係をはじめ夜遅くまで夜景のすばらしい施設を利用させていただいた皆様のご協力があったからこそ、と思っております。心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(平成17年度総合目録データベース実務研修 雑誌班 磯野記)

まとめ - 二つの世界 -

わが班では雑誌目録における二つの大きな課題を扱った。雑誌目録の品質管理と電子ジャーナルを中心とした更新資料の目録についてだ。

まず雑誌目録の品質管理の問題であるが、目録の現場に人員が減っている問題が背景にある。そんな状況でも気軽に書誌を作れるように、一人で悩み続けないように、解決するためのマニュアルを作った。雑誌の実務に携わる者で作ったので、すぐに実践に移れる内容を心がけた。

図書に比べて雑誌の書誌は作るの難しい、作業が複雑なので戸惑ってしまうなど、目録作業にしり込みしてしまう声をよく耳にする。職場に目録に習熟した人が多数いて分からないときは聞けばよかったのも遠い昔のことで、人員の削減などで聞ける人のいない職場が増えた。

だが雑誌の書誌を作りたい気持ちは萎えていない。要望は高く NII の目録システム講習会でも雑誌コースの人气が高まっているのもその表れだろう。マニュアル作成が課題となっている品質向上にもつながるのでは、と成果に胸をなでおろしている。なお、目録規則の変化による「軽微な変化」の拡大により変遷基準が変更になるが、解釈が難しく NII の細則が待ち遠しい。

もうひとつの電子ジャーナル書誌については、図書館員の現場からの提案のひとつだ。

よく、環境の変化が早すぎると言われる。

毎年のように変わる契約タイトルと閲覧期間、知らない間に変わる URL、パッケージ購入をすると膨大なタイトルが一夜にして増える構造。

こうした出版社主導の環境整備に、図書館の自前主義(電子ジャーナルリストの作成・管理や電子ジャーナル書誌を OPAC に表示させるなど)では対応できなくなった。増えた図書館の悩みに、業者はビジネスチャンスを見出し、電子ジャーナルの管理ツールを廉価で売り出し、またたくまに各大学に広がっている。

今、何が求められるか？

わが班の雑誌契約、目録作成、システム経験者の知恵を集めて、雑誌目録規則の観点を外し、実務的な提案をした。それに講義で茂出木課長補佐が言われた「全国の学術資源を集約したい」という大きな視野にも対応できるようにつとめた。

今回の発表は二部構成となった。私たちは「二つの世界」が生まれる予感を覚えている。

雑誌の世界では英米目録規則(AACR)や日本目録規則(NCR)の改訂に伴い、従来の逐次刊行物を軸とした概念から逐次刊行物と更新資料という二つの資料概念が広がっている。結果的にわが班の発表も議論を深めるなかで、一部の逐次刊行物の目録の取り方については細かい点までおさらいする内容となり、二部の電子ジャーナルに関しては、従来の雑誌目録の考え方を離れた提案を行ったという点で、雑誌世界の動向に沿ったものに落ち着いたのは驚きだった。目録規則を離れて実務者の視点から討議した提案が二本立てになったことは、今後、雑誌目録にこの「二

つの世界」が広がっていく予兆ともいえないか。

今回の発表に関して、以下のような意見が出た。

- ・ 管理 DB という側面が強いが、アクセス権保有校の閲覧期間が表示されない総合目録を作って利用があるのか？
- ・ 何故、パッケージタイトルを優先するのか？
- ・ 今の CAT - DB において図書もしくは雑誌、どちらの構造を使っても電子ジャーナルの世界を表現するには難しいのが分かった。
- ・ 極端な DB モデル案だったが、実証するにはこうしたモデルは必要だ。
- ・ 今回の案にサービス部門や他部門の意見をいれるとまとまらないのでは？ 根深い問題がある。
- ・ 電子ジャーナル書誌は結論の出ない問題である。

これに関しての次のような応答があった。

- ・ アクセス権保有校の閲覧期間を表示するのは ILL のためというが、この ILL の視点を外して電子ジャーナルの総合目録を考えないと総合目録の存在が不要という極端な結論が出てしまうのではないか？
- ・ 電子ジャーナルは最新データが主になるため、初号主義をとる雑誌の DB 構造では表現は難しい。
- ・ 全国の学術資源を集約するという視点、総合目録の意義から電子ジャーナル書誌を検討することをやめてはいけないと思う。

現段階のそれぞれの立場の意見が集約できた感じのする質疑応答だった。電子ジャーナルの世界は流れが速いというが、来年、今後の情勢はまだ分からない。ある程度契約状態が安定してからでないと、目録という観点から話をまとめるのは難しいようにも感じる。「全国の学術資源を集約」する総合目録という視点を外さずにつきつめないと論議が崩れていく危惧もある。

さてもうひとつの世界の話に戻ろう。

NII の目録システム講習会でも雑誌コースを増設する意向と聞いた。講習会の補助テキストとしてこのマニュアルが利用されれば幸いであるし、わたしたちが講師を務めるに当たって「虎の巻」にするつもりである。

以下は全国の目録担当者へのメッセージとしたい。

図書館で雑誌の目録をとる皆さん、自信をもって目録作業にあたってください。
だれも最初は迷います。しかし場数を踏めば度胸がついてきます。この発表が皆様の背を押すことになればうれしく思います。

(付記)

・全国の大学のアクセス権情報を集める意味について

所在目録は ILL の促進を図るものであったが、その観点から電子ジャーナルは ILL に向かない性格をもっている。権利の概念が違う。冊子体は所有できるものであるが、電子ジャーナルはアクセス権のある期間得るという点だ。アクセス権は、電車の定期券のようなもので、利用者は決められた区間(期間)の電車(電子ジャーナル)の利用が保証されているが、駅や電車は所有できない。電子ジャーナルも同じような考え方が当てはめられるだろうか。また、定期券は他人に譲渡できないものだ。このイメージでいけば ILL も成立しにくいものと考えられるのではないか？

では何のために全国の大学のアクセス権を集めるのか？ 雑誌契約の立場からの意見で言うなら、購入や選定の参考データになるのではないか？ という点だ。

どの図書館も予算が減少し、購入方針を網羅的収集から選択と集中化に転換しないといけない時期にきている。アクセス権情報が、大学で電子ジャーナルパッケージ購入の際、全国のどこの大学がどの程度購入しているかを知るための参考データとして活用できるのではないか、という期待がある。今、購入データは出版社の企業秘密に属するか、各大学図書館協会で把握している程度でオープンにはなっていない。DB 上の公開は、大学にとって出版社とコンソーシアム契約交渉や価格交渉の一助になるのではないか？ また出版社も他社の状況を把握できて、販売戦略に利用できる。両者にメリットのする DB になると思われる。さらに日本の学術レベルを WEB 上で公開することによって世界への発信にもなるのではないか。

以上のように従来の ILL とは違う意味を総合目録には付与できる状況を考察した。

(平成17年度総合目録データベース実務研修 雑誌班 中村記)